

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

堀毛一也	社会学部・大学院社会学研究科 教授	社会心理学におけるサステナビリティ研究	サステナブルな心性と主観的幸福感の関連の理解
稲垣 諭	自治医科大学 医学部 教授	欧米に於ける環境デザイン	ヨーロッパ的自然観に基づく環境デザインの探求
(共同研究機関等) 一般社団法人 サステナビリティ・サイエンス・コンソーシアム(SSC)		人間・社会・地球の持続性を追及するサステナビリティ・サイエンスの人材育成・普及啓発・実践活動	
サステナビリティ学連携研究機構(IR3S)		地球・社会・人間システムの統合による持続型社会の構築	
茨城大学地球変動適応科学研究機関(ICAS)		気候変動への適応、安全で豊かな社会、サステナビリティへの貢献	

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

・平成 23 年度時点参加研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
山田利明	文学部・大学院文学研究科 教授	中国宗教の持つ自然認識	東洋的自然観に基づく環境デザインの探求
竹村牧男	文学部・大学院文学研究科 教授	仏教思想の自然観	仏教思想による自然観のあり方と共生の基盤を明らかにする
河本英夫	文学部・大学院文学研究科 教授	自然共生型の環境デザイン	共生型の環境デザインの探求と理念の提示
永井 晋	文学部・大学院文学研究科 教授	フランス哲学の自然共生	フランス哲学の持つ自然観と共生の理念を明らかにする
山口一郎	文学部・大学院文学研究科 教授	ドイツ哲学の自然と共生	ドイツ哲学の持つ自然観と共生の理念を明らかにする
坂井多穂子	文学部・大学院文学研究科 准教授	中国文化の自然と共生	中国文化の持つ自然観のあり方と共生の理念を明らかにする
大島 尚	社会学部・大学院社会学研究科 教授	自然・環境に対する価値意識調査	国内外に於ける価値意識の調査と分析による社会意識の提示
安藤清志	社会学部・大学院社会学研究科 教授	環境配慮行動に影響を与える社会的規範情報の効果	環境配慮行動の規定因の基礎的資料の提供

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

堀毛一也	社会学部・大学院社会学研究科 教授	社会心理学におけるサステナビリティ研究	サステナブルな心性と主観的幸福感の関連の理解
関谷直也	社会学部・大学院社会学研究科 准教授	環境配慮行動の社会心理	集団行動論による環境配慮行動の理解
今井芳昭	慶應義塾大学文学部 教授	環境配慮行動の規定因	態度変化研究に基づく環境配慮行動規定因の基礎資料の提供
稲垣 諭	文学部 助教	欧米に於ける環境デザイン	ヨーロッパ的自然観に基づく環境デザインの探求
吉田公平	文学部 教授	中国思想の持つ自然と共生	中国思想の持つ自然観のあり方と共生の基盤を明らかにする
菅 さやか	社会学部 助教	環境配慮行動への文化心理学的アプローチ	環境配慮行動規定因の文化差の理解
今井芳昭	慶應義塾大学文学部 教授	環境配慮行動の規定因	態度変化研究に基づく環境配慮行動規定因の基礎資料の提供
田中綾乃	三重大学人文学部 准教授	ドイツ哲学の自然と共生	近代ドイツ哲学の持つ自然観と共生の理念を明らかにする
西村 玲	財団法人東方研究会 常勤研究員	仏教思想の自然観	仏教思想による自然観のあり方と共生の基盤を明らかにする
横打理奈	東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ 客員研究員	近代日本思想の持つ自然と共生	日中比較文化から共生の理念を明らかにする
関 陽子	東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ 研究助手	生態学における自然と共生	動物学、農学から共生の理念を明らかにする
武藤伸司	東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ リサーチアシスタント	欧米に於ける環境デザイン	ドイツ現象学に基づく環境デザインの探求

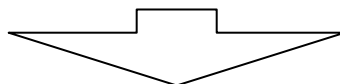
(以下、「東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ」を「TIEPh」と略記)

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
環境配慮行動を促す説得メッセージ	社会学部・大学院社会学研究科教授・TIEPh 価値観・行動ユニット研究員	北村英哉	説得メッセージと受け手の感情に着目した実証研究の実施

(変更の時期:平成 24 年 3 月 31 日)



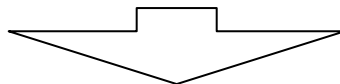
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	退任		

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
環境配慮行動への文化心理学的アプローチ	社会学部 助教・TIEPh 価値観・行動ユニット研究員	菅さやか	環境配慮行動規定因の文化差の理解

(変更の時期:平成 24 年 3 月 31 日)



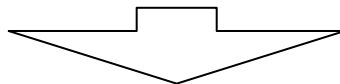
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	退任		

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
欧米に於ける環境デザイン	文学部 助教・TIEPh 環境デザインユニット研究員	稲垣 諭	ヨーロッパ的自然観に基づく環境デザインの探求

(変更の時期:平成 24 年 4 月 1 日)



新

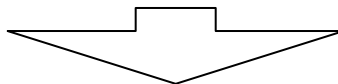
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
文学部助教・TIEPh 環境デザインユニット研究員	文学部非常勤講師・TIEPh 研究支援者	稲垣 諭	ヨーロッパ的自然観に基づく環境デザインの探求

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
生態学における自然と共生	TIEPh 研究助手	関 陽子	動物学、農学から共生の理念を明らかにする

(変更の時期:平成 24 年 4 月 1 日)



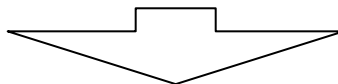
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
TIEPh 研究助手	TIEPh 研究支援者	関 陽子	動物学、農学から共生の理念を明らかにする

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 24 年 4 月 1 日)



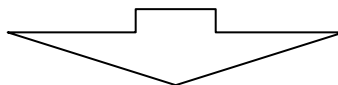
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	TIEPh 研究支援者	野村英登	近代日本の自然観の展開を明らかにする。

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 24 年 4 月 1 日)



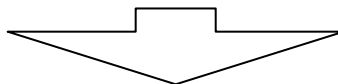
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	TIEPh 研究支援者	大久保暢俊	社会的比較研究の知見からの環境配慮行動の規定因の検討

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 24 年 4 月 1 日)



法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

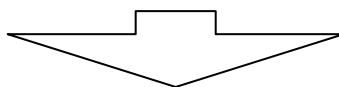
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	文学研究科博士後期課程・TIEPh リサーチアシスタント	岩崎 大	死生観形成に基づく環境デザインの探求

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
近代日本思想の持つ自然と共生	TIEPh 客員研究員	横打理奈	日中比較文化から共生の理念を明らかにする

(変更の時期:平成 25 年 3 月 31 日)



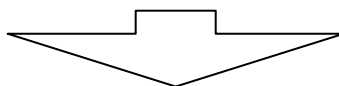
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	退任		

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
死生学的環境デザイン	文学研究科博士後期課程・TIEPh リサーチアシスタント	岩崎 大	死生観形成に基づく環境デザインの探求

(変更の時期:平成 25 年 4 月 1 日)



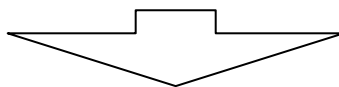
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
TIEPh リサーチアシスタント	文学部非常勤講師・TIEPh 研究助手	岩崎 大	死生観形成に基づく環境デザインの探求

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
欧米に於ける環境デザイン	文学部非常勤講師・TIEPh 研究支援者	稲垣 諭	ヨーロッパ的自然観に基づく環境デザインの探求

(変更の時期:平成 25 年 4 月 1 日)



新

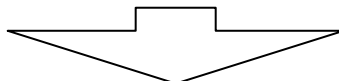
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
文学部非常勤講師・TIEPh 研究支援者	自治医科大学教授・TIEPh 客員研究員	稲垣 諭	ヨーロッパ的自然観に基づく環境デザインの探求

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 25 年 4 月 1 日)



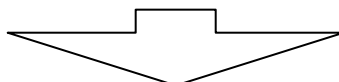
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	文学部准教授・TIEPh 自然観探求ユニット研究員	山本亮介	近現代日本文学に現れる自然観のあり方と共生の理念を明らかにする

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 25 年 4 月 1 日)



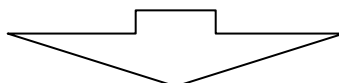
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	文学部講師・TIEPh 自然観探求ユニット研究員	信岡朝子	環境表象に関する比較文化研究

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 25 年 4 月 1 日)



新

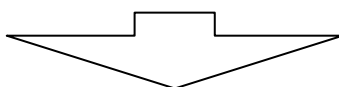
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	社会学部・社会学研究科教授・TIEPh 価値観・行動ユニット研究員	山田一成	価値意識調査の実施と分析

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
ドイツ哲学の自然と共生	文学部・文学研究科教授・TIEPh 自然観探求ユニット研究員	山口一郎	ドイツ哲学の持つ自然観と共生の理念を明らかにする

(変更の時期:平成 25 年 4 月 1 日)

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006



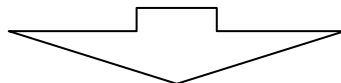
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
文学部・大学院文学研究科教授・TIEPh 自然観探求ユニット研究員	文学研究科客員教授・TIEPh 客員研究員	山口一郎	ドイツ哲学の持つ自然観と共生の理念を明らかにする

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
中国思想の持つ自然と共生	文学部教授・TIEPh 自然観探求ユニット研究員	吉田公平	中国思想の持つ自然観のあり方と共生の基盤を明らかにする

(変更の時期:平成 25 年 4 月 1 日)



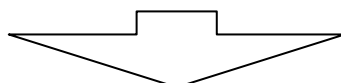
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
TIEPh 自然観探求ユニット研究員	文学部名誉教授・TIEPh 客員研究員	吉田公平	中国思想の持つ自然観のあり方と共生の基盤を明らかにする

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 25 年 4 月 1 日)



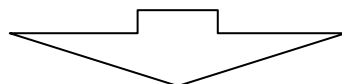
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	TIEPh 客員研究員	田村義也	近代日本思想の持つ自然観のあり方と共生の基盤を明らかにする

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 25 年 4 月 1 日)



法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

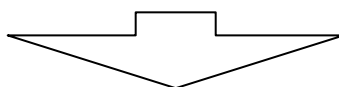
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	早稲田大学助教・TIEPh 客員研究員	唐澤大輔	近代日本思想の持つ 自然観のあり方と共生 の基盤を明らかに する

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 25 年 4 月 1 日)



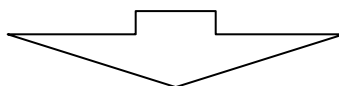
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	文学部非常勤講師・TIEPh 客員研究員	早川芳枝	近代日本文学の持つ 自然観のあり方と共生 の理念を明らかに する

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 25 年 4 月 1 日)



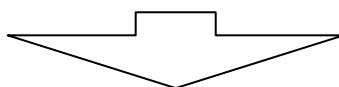
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	一橋大学言語社会研究科 博士後期課程・TIEPh 客 員研究員	王 媛	中国文化の持つ自然 観のあり方と共生の 理念を明らかにする

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
環境配慮行動の規定 因	慶應義塾大学教 授・TIEPh 客員 研究員	今井芳昭	態度変化研究に基づく 環境配慮行動規定因の 基礎資料の提供

(変更の時期:平成 26 年 3 月 31 日)



新

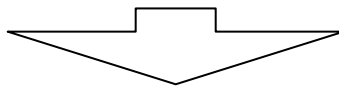
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	退任		

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
ドイツ哲学の自然と共生	哲学専攻客員教授・TIEPh 客員研究員	山口一郎	ドイツ哲学の持つ自然観と共生の理念を明らかにする

(変更の時期:平成 26 年 3 月 31 日)



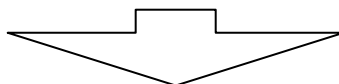
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	退任		

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
中国思想の持つ自然と共生	文学部名誉教授・TIEPh 客員研究員	吉田公平	中国思想の持つ自然観のあり方と共生の基盤を明らかにする

(変更の時期:平成 26 年 3 月 31 日)



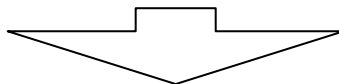
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	退任		

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
ドイツ哲学の自然と共生	三重大学准教授・TIEPh 客員研究員	田中綾乃	近代ドイツ哲学の持つ自然観と共生の理念を明らかにする

(変更の時期:平成 26 年 3 月 31 日)



新

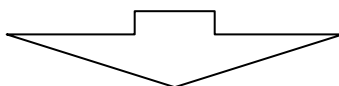
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	退任		

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
環境配慮行動の社会心理	TIEPh 研究支援者	大久保暢俊	社会的比較研究の知見からの環境配慮行動の規定因の検討

(変更の時期:平成 26 年 3 月 31 日)

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006



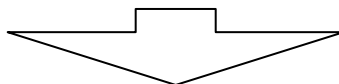
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	退任		

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
環境配慮行動の社会心理	社会学部准教授・TIEPh 価値観・行動ユニット研究員	関谷直也	集団行動論による環境配慮行動の理解

(変更の時期:平成 26 年 3 月 31 日)



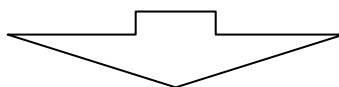
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	退任		

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 26 年 4 月 1 日)



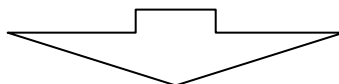
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	文学部教授・TIEPh 自然観探求ユニット研究員	相楽 勉	近代日本思想の持つ自然観のあり方と共生の基盤を明らかにする

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
欧米に於ける環境デザイン	文学研究科博士後期課程・TIEPh リサーチアシスタント	武藤伸司	ドイツ現象学に基づく環境デザインの探求

(変更の時期:平成 26 年 4 月 1 日)



法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

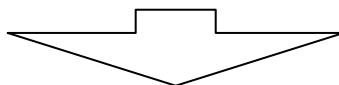
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
TIEPh リサーチ・アシスタント	東洋大学国際哲学研究センター研究助手・TIEPh 客員研究員	武藤伸司	ドイツ現象学に基づく環境デザインの探求

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 26 年 4 月 1 日)



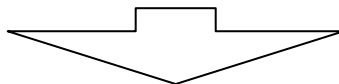
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	文学研究科博士後期課程・TIEPh リサーチアシスタント	増田隼人	ドイツ現象学に基づく環境デザインの探求

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 26 年 11 月 4 日)



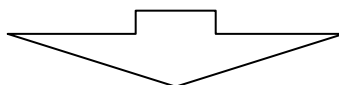
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	文学研究科博士後期課程・TIEPh リサーチアシスタント	竹中久留美	近代イギリス哲学に基づく環境デザインの探求

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
欧米に於ける環境デザイン	文学研究科博士後期課程・TIEPh リサーチアシスタント	竹中久留美	近代イギリス哲学に基づく環境デザインの探求

(変更の時期:平成 27 年 3 月 31 日)



新

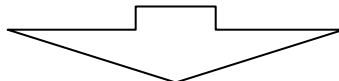
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	退任		

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
欧米に於ける環境デザイン	東洋大学国際哲学研究センター研究助手・TIEPh 客員研究員	武藤伸司	ドイツ現象学に基づく環境デザインの探求

(変更の時期:平成 27 年 4 月 1 日)



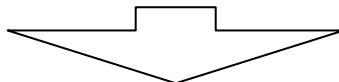
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
東洋大学国際哲学研究センター研究助手・TIEPh 客員研究員	東京女子体育大学講師・TIEPh 客員研究員	武藤伸司	ドイツ現象学に基づく環境デザインの探求

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 27 年 4 月 1 日)



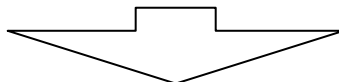
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	文学部教授・TIEPh 環境デザインユニット研究員	緒方登士雄	心理学的実践に基づく共生型の環境デザインの探究

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 27 年 4 月 1 日)



新

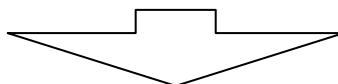
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
	文学部准教授・TIEPh 環境デザインユニット研究員	金子有子	生態学に基づく共生型の環境デザインの探究

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
日本文化の自然と共生	文学部准教授・TIEPh 自然観探求ユニット研究員	山本亮介	近現代日本文学に現れる自然観のあり方と共生の理念を明らかにする

(変更の時期:平成 27 年 4 月 1 日)



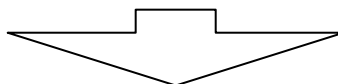
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
文学部准教授・TIEPh 自然観探求ユニット研究員	文学部教授・TIEPh 自然観探求ユニット研究員	山本亮介	近現代日本文学に現れる自然観のあり方と共生の理念を明らかにする

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
近代日本思想の持つ自然と共生	早稲田大学助教・TIEPh 客員研究員	唐澤太輔	近代日本思想の持つ自然観のあり方と共生の基盤を明らかにする

(変更の時期:平成 27 年 5 月 1 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
早稲田大学助教・TIEPh 自然観探求ユニット研究員	龍谷大学世界仏教文化研究センター博士研究員・TIEPh 客員研究員	唐澤太輔	近代日本思想の持つ自然観のあり方と共生の基盤を明らかにする

11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

本プロジェクトは、平成 18 年以来東京大学を中心とする文部科学省科学技術振興調整費「サステナビリティ学連携研究機構(IR3S)」構想に協力機関として参画してきた東洋大学「エコ・フィロソフィ学際研究イニシアティブ」が、振興調整費プロジェクトの終了に際して、エコ・フィロソフィの確立とその深化を図り、エコ・フィロソフィ教育の実践を通して研究者の育成を図ることを主たる目的として設立された。併せてこの研究によって得られた成果を広く公表して、この分野の新たな展開を企図する。現代社会の喫緊の問題として、環境問題の解決があることは今更贅言を要さない。しかし、それは科学的解決だけではなく、社会意識や価値観・思想のあり方に大きく関わる。本研究は、そうした形而上学的な問題意識を明らかにすることで、環境問題の根本的な対応、さらには共生の理論を構築することが出来る。

平成 23 年度は、従来集積してきた各ユニットの成果を整理し、大学院等の授業、あるいは研究会によって発展・進化させる。同時に国内外の研究状況の調査など、エコ・フィロソフィ研究のネットワーク形成の作業を行う。平成 24 年度は、基本的には前年度と同様の作業を行う

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

が、エコ・フィロソフィの確立に向けた新事業(国際研究集会)を行う。平成 25 年度は、前年度の成果を踏まえ、国際的な研究ネットワークを確立し、育成した RA などによるセミナーを開催し、中間成果とする。平成 26 年度は、初年度以来の研究実績を検討し、拠点形成のための問題点の抽出と対策を実施。3 ユニットの成果を確認する。平成 27 年度は最終年度であるので、2 回目の国際研究集会を開催し、研究拠点としての地歩を確実にする。

(2) 研究組織

本プロジェクトは 3 つの研究ユニットで構成されている。第 1 ユニット「自然観探究ユニット」は、哲学の研究者を中心にして、東洋・西洋の自然観や人間観、共生のあり方を思想的に追求し「エコ・フィロソフィ」の中核を形成する思想を探究する。第 2 ユニット「価値観・行動ユニット」は、社会心理学の研究者が、アジア諸地域の人々の価値意識の実情を測定し、国際比較を通じて、環境政策や人々を環境配慮行動へ導くための指針を提供することを目指す。第 3 ユニット「環境デザインユニット」は、哲学の研究者が、現行のシステムを再編、拡張するアイデアを導入するという仕方で、環境問題に対する新たなシステム・デザインの構想を探究する。

研究員 24 名はそれぞれの専門分野に基づいて、概ねいずれかのユニットに配属され、各ユニット長とともに、「エコ・フィロソフィ」研究における可能的役割を決定し、探究を進めてきた。また、その研究成果を教育実践のかたちで示してきた。各ユニットの研究対象や研究方針は、研究代表者の統率の下で、プロジェクト全体の目的に資するテーマを共有して決定されるものであり、その際、各ユニットは連携をはかり、横断型の研究形成を進めた。新規に加入した研究員については、定例で行う研究報告会で発表を行い、本プロジェクトにおける研究の位置づけと、今後の研究方針についての議論の場を設けた。

イベントや出版物、他機関との連携等については、運営委員会による審議の下、基盤形成のための学際性、実践可能性を重視して計画されており、執筆担当者、講義担当者について、各ユニットや外部の研究者をバランスよく配置した。研究者育成に関しては、これまで PD の研究助手として 2 名、研究支援者として 4 名、大学院博士後期過程の PRA として 4 名を採用し、実践的な研究方法を習得する機会を提供した。年度末には外部の有識者による評価委員会を開催することで、研究成果の客観的評価を得るとともに、今後の活動方針の妥当性を確保してきた。

共同研究機関との連携については、茨城大学地球変動適応科学研究機関(ICAS)との共催で平成 18 年度以来、毎年国際セミナーを開催し、一般社団法人サステナビリティ・サイエンス・コンソーシアム(SSC)とは、本プロジェクトの研究員が研究部会に参加し、研究会やイベントを通して相互の研究成果を確認すると共に、視察地の選定と仲介、機関紙『サステナ』の執筆協力といったかたちでの連携を行った。

(3) 研究施設・設備等

本プロジェクトは、東洋大学白山キャンパス 6 号館 60458 室に面積 15m²の事務局を設置している。事務室には、研究助手、研究支援者、RA、長期アルバイトの計 4 名が交代で常駐しており、センター長および研究員の指示の元で研究および研究支援を行っている。通常は平日の 10 時から 18 時を利用時間に充てている。事務室には、プロジェクトの実施に必要な電話機、パソコン、プリンタ複合機等を設置し、必要な資料やデータの管理、編集を効率的に行っている。

(4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

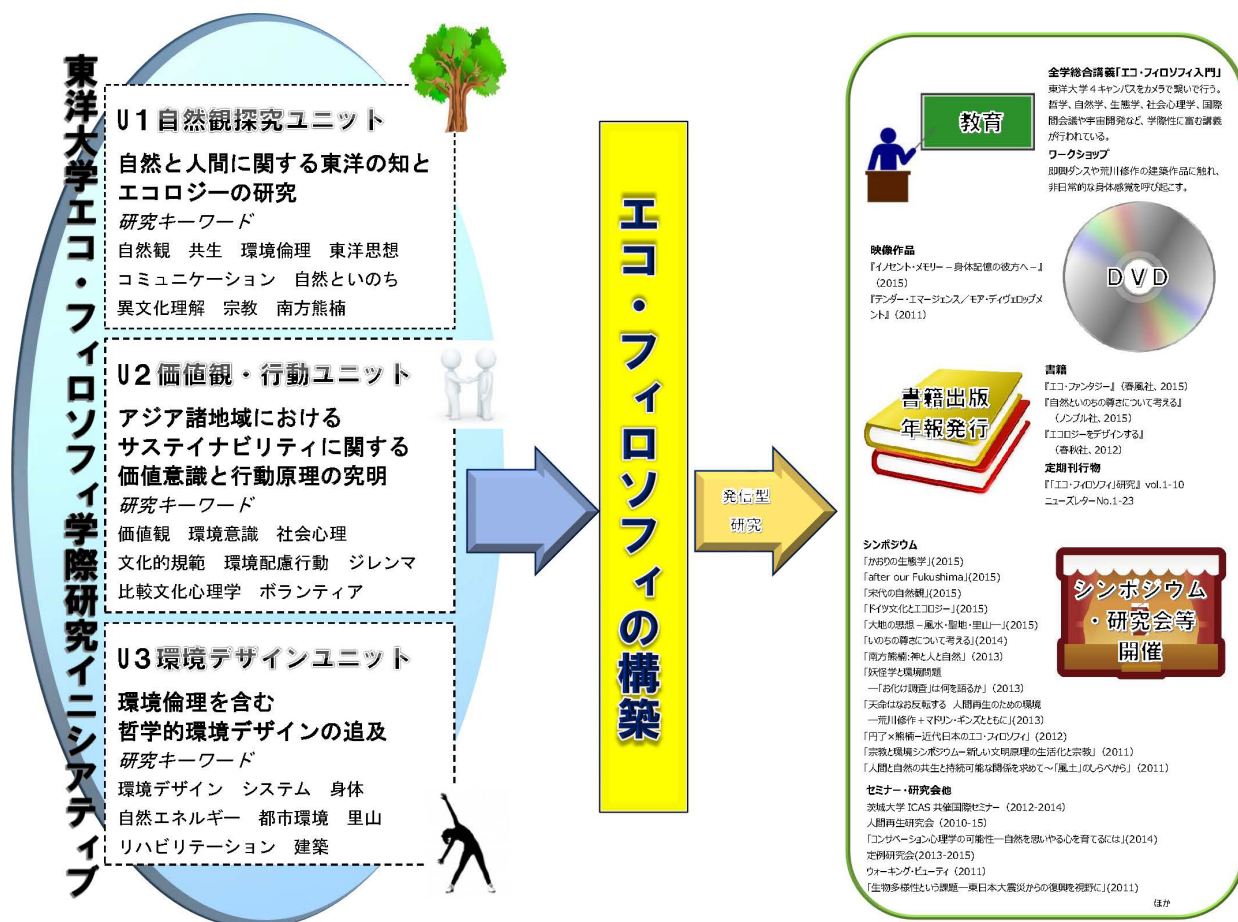
1)プロジェクト全体としての活動

採択時の構想調書から年度ごとの計画に若干の遅延はあったものの、本プロジェクトが目的とするエコ・フィロソフィの確立と教育の研究のための活動は、計画した通りの相応の実績を出してきた。また、南方熊楠にはじまる近代日本独自のエコロジー研究や、東日本大震災

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

を受けての復興のデザイン等、当初は予定しなかった局面での成果もあり、研究基盤の形成として満足のいく成果を挙げていると考える。

本プロジェクトでは、3つのユニットがそれぞれの基本となるテーマを研究するとともに、その有機的な連関によって、プロジェクトの目的達成のための問題設定や研究方針などを適宜検討し、多様なかたちでの研究成果を発表するという方法をとっている。活動内容およびその成果概要を図示すると、以下のようになる。



本プロジェクトでは、これまで12件のシンポジウム、7件のセミナー、5件のワークショップ、9件の研究会を開催し、視察や調査、学内イベントの開催も行った。研究活動によって獲得した研究成果は、研究年報、研究年報別冊(イベント抄録集)、ニュースレターとして毎年紙面のかたちで定期発行し、書籍のかたちでは2冊のエコ・フィロソフィ教育の教科書と、1冊の研究成果論集を刊行した。その他にも DVD 作品の制作や、ホームページ作成、シンポジウム等の動画掲載といったインターネット上での情報開示、さらにパンフレットや東洋大学研究成果・シーズ展への出展というかたちでの成果報告・活動紹介も行ってきた。

エコ・フィロソフィ教育の実践としては、まず毎年秋学期に東洋大学全キャンパス配信授業である全学総合講義「エコ・フィロソフィ入門」*1 を開講し、研究員や連携する研究者による学際的な基礎教育を行った。また、通年で行う大学院文学研究科哲学専攻「現代哲学演習Ⅱ」*2 では、最新の哲学研究・臨床研究に基づく専門教育を行い、より専門的な研究成果についての教育と議論がなされている。さらに参加型のワークショップでは、舞踊家等のアーティストを招き、自然科学的理解に偏りがちな環境問題に対して、身体性や身近な環境を重視する環境との関わりを体験的に自覚させることで、本プロジェクト独自の環境教育を行った。PD

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

や RA に対しては、研究活動や会議への積極的な参加を促し、研究活動の共有をするとともに、ひとつの専門領域に留まらない、実践可能性に根ざした学際的研究のあり方についての教育を行ってきた。その一例として、稲垣諭研究員は、本プロジェクトの PD から自治医科大学教授に就任し、研究成果の医学的実践と教育に従事している。

海外の研究者、研究機関との連携については、オーストラリアのサンシャインコースト大学(USC)、マレーシアの国際イスラム大学(IIUM)およびマラヤ大学(UM)、あるいは一般社団法人サステナビリティ・サイエンス・コンソーシアム(SSC)を通じた国連大学とのシンポジウムや視察、共同調査などの研究連携を行い、ウースター大学(アメリカ)の S. クレイトン教授、ウィーン大学の G. シュテンガー教授、四川大学の周裕鎔教授などを招聘しての国際シンポジウムを開催した。さらに稲垣諭客員研究員が、ギリシアで行われた第 23 回世界哲学会議^{*3}において、本プロジェクトの研究成果の発表を行った。

2)各ユニットの研究活動

第1ユニット(自然観探究ユニット)

「自然観探究ユニット」では、西洋の自然科学的価値観に偏重しがちな環境問題の議論のなかで、自然に対する思考や哲学の研究、とりわけ東洋の自然観に基づくライフスタイルや制度設計を研究することで、新たな視点と方法論を提示し、現代環境論を再構成するエコ・フィロソフィの確立を行った。第 1 ユニットの研究の基本は文献研究にあるが、単なる事実の報告にとどまらず、ここから明らかになった東洋的自然観の内実と多様性を、いかにして環境問題に資するエコ・フィロソフィとして提示できるかということに重点が置かれている。自然観探究を現代の環境問題への実践につなげるためには、宗教や文化を背景としつつも、現代の文明化のなかに生きる現地の人々の意識や感覚を理解しなければならない。そのためには、文献研究と併せて、意識調査や現地視察が必要となるため、別ユニットと連携してこれを行った。

1. 東洋思想の自然観探究と近代日本のエコロジー

東洋の自然観について、「自然」と「共生」をテーマに研究を行うことで、エコ・フィロソフィの中核となる共生哲学を追及した。平成 23 年度のシンポジウム「人間と自然の共生と持続可能な関係を求めて－風土のしらべから」^{*4}、「宗教と環境シンポジウム－新しい文明原理の生活化と宗教」^{*5}では、環境問題を抱えた現代の文明化社会の実状に対して、持続可能な社会の実現のために、東洋思想の自然観、風土論、共生思想がもつ現代的意義を示した。平成 26 年度のシンポジウム「大地の思想－風水・聖地・里山－」^{*6}、平成 27 年度の特別講演「洞天思想と自然環境の問題」^{*7}では、東洋の自然観の思想的基礎となる仏教、儒教、道教、神道といった宗教に内在する多様性のある「自然」や「共生」のかたちを吟味するとともに、その具体的実践のかたちを示し、科学的な合理的知識に対する自然共生的な身体的知の具体的な内実とその展開可能性を提示した。

また思想や宗教の枠組みだけでは捉えきれない、人間の感性に根ざした自然観の探究を行った。平成 27 年度の国際シンポジウム「宋代の自然観」^{*8}では、四川大学の周裕鎔教授を招き、北宋の風景、絵画、詩歌が仏教禅と融合することでもたらされた、思想と風景と芸術の融合的変容から、宋代文学特有の自然観について議論が行われた。また、同年のシンポジウム「かおりの生態学」^{*9} や、定例研究会においては、東洋の文学や芸術における自然観についての研究も行い、西洋文化や現代と対比しつつ検討した。

更に東洋の文化伝統と現代の日本社会を実証的に接続することを目指し、平成 24 年度以降から、近代日本のエコ・フィロソフィに関する研究を展開した。シンポジウム「円了×熊楠－近代日本のエコ・フィロソフィ」^{*10} や、和歌山県田辺市および南方熊楠顕彰館と連携して開催した平成 25 年度のシンポジウム「南方熊楠：神と人と自然」^{*11} では、日本における「エコロジ

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

一」の先駆者である南方熊楠の自然観と自然保護運動に注目し、アジア諸地域および西洋の自然観、さらに井上円了の哲学と対比させるかたちで、その現代的意義について議論を行った。南方熊楠の研究は継続して進められ、専門家の田村義也氏と唐澤太輔氏を客員研究員として招き、研究ネットワークを構築した上で、研究会やシンポジウムを開催した。さらに南方熊楠顕彰館および熊野古道の視察^{*12}を行い、博物学者としての熊楠の研究成果と、熊楠が守ろうとした生物多様性に満ちた自然と文化を体感することで、生活環境と自然観が結びついたエコロジー運動の実態を把握した。

東洋および近現代日本思想における自然観探究は、上記のほか、各研究員の専門領域からの研究が行われており、それらは研究年報のかたちで報告された。これらの報告が、同分野のみならず、他ユニットの研究の基礎として応用されている。

2. 「自然といのちの尊さについて考える」

平成 18 年度から継続して開催されている茨城大学地球変動適応科学研究機関(ICAS)と共催で行っている国際セミナーでは、環境問題対策の基本となっている自然科学・社会科学的世界観の限界を理解し、学問や社会の基盤となる新たな思想へのパラダイムチェンジを目指して活動した。プロジェクト期間以前の、思想研究を中心に行ってきた研究を第一フェーズとして区切り、平成 23 年度より、社会科学に基づく実践的な制度設計を含めた「自然共生社会」のための制度設計を迫る第二フェーズを立ち上げた。ポストモダンの共同体形成において、人文科学と社会科学を統合した「ホリスティック教育」の必要性が確認され、洋の東西や文理、世代も異なる様々な研究者間での議論の末に、その具体的実践可能性を探索した。

平成 26 年度には、共催国際セミナーでの議論を集約した 2 冊目の成果本である『自然といのちの尊さについて考えるーエコ・フィロソフィとサステナビリティ学の展開』^{*13}を出版した。本書では、環境問題を筆頭に数々の社会問題を抱える現代人に迫られている価値転換として、物質的豊かさとは異なる、「いのちの深み」からくる豊かさについて、それぞれの研究者の視点から論ぜられている。そこでの課題は、現代において自然といのちの尊さの自覚がいかんして達成されるのかという点にあり、自然との共生という意識が、価値転換の指針として示された。

第2ユニット(価値観・行動ユニット)

「価値観・行動ユニット」では、社会心理学的調査による実証データの蓄積から、経済成長の著しいアジア諸国における環境意識を、東洋的な価値観の特性を明らかにするというかたちで分析すること、さらに、サステナビリティに関する個人の心理と行動の傾向を分析するための実験、調査を行い、そこから明らかになるジレンマ構造の実態を分析し、それを打開するための方法を検討すること、この二つの視点から、地球環境問題解決への社会心理学的アプローチを展開した。

1. アジア諸地域における価値観調査

本プロジェクト開始以前に収集したシンガポール、中国、ベトナムの実証データの研究に引き続いて、アジア諸地域の価値意識調査を行った。マレーシアの価値観調査においては、平成 23 年度に現地視察を行い^{*14}、現地調査会社の調査員、および大学研究者らと情報を交換した。調査会社では、現地での調査方法、マレーシア特有の事情、特に多民族性や宗教などについて詳細な説明を受け、マレー半島と東マレーシアの地域差や宗教特性に着目するなど、調査によって得られたデータを分析する際に有効な知見を得た。また、国際イスラム大学(IIUM)とマラヤ大学(UM)との研究交流が行われ、心理学教育や環境についての取り組みなどで議論が交わされ、本プロジェクトのエコ・フィロソフィ教育活動に還元した。

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

平成 24 年度にはオーストラリアのサンシャインコースト大学への視察^{*15}を行い、サステイナビリティ・リサーチ・センターの研究者から、サステイナビリティ教育に関するオーストラリアの現状と、同センターが行っている活動内容の説明を受け、アジア・オセアニアの広域にわたって調査・実験をするための意見交換を行った。

また、平成 24 年度は、シンポジウム「妖怪学と環境問題-「お化け調査」は何を語るのか-」^{*16}を開催し、本プロジェクトの研究者と、統計数理研究所調査科学研究センターや青山学院大学アジア国際センターの研究者、さらに東洋思想の研究者によって、国際的な大規模調査を踏まえた環境意識に関わる価値観について報告し、それらのデータから、東洋の各地域独自の自然観、宗教観等についての議論が行われた。

平成 25 年度には、アメリカ・オハイオ州ウースター大学のスーザン・クレイトン教授を招き、特別セミナー「コンサベーション心理学の可能性—自然を思いやる心を育てるには—」^{*17}を開催した。自然環境との心理的な関わりから形成される「環境アイデンティティ」を形成するための自然体験を、個人、文化、社会のレベルで構築し、自然保護の意識から環境問題への実践を導くというアプローチについて、実証データや、中国で進められているプロジェクトについて報告があり、これについて本プロジェクト研究者との、文化差やコミュニティの問題を踏まえた議論を行い、自然保護に基づく環境教育の実践可能性と期待される効果が明らかとなった。

これらの研究は研究年報や学会発表というかたちで報告されており、海外への発信としては、「Social norms and people's values in light of sustainability」(Ohshima, 2011)^{*18}、「A preliminary study for the individual differences in sustainable mind and behavior.」(Horike, 2012)^{*19}などがある。

2. 環境意識に関する個人の心理傾向の分析

個人の心理レベルの実験・調査は、マクロレベルとしての環境問題と、マイクロレベルとしての個人の関係を検討する上で必要となるデータであり、各研究者が共同して、いくつかのテーマで複数回調査・実験を行い、その結果を報告した。

ボランティア・ジレンマに関する実験では、N 人囚人ジレンマの実験を行い、環境配慮行動においても重要となる、集団内での個人の利益と集団の利益に関する心理分析を行った。被験者は囚人のジレンマの理論で予想されるような、他者の協力行動を当てにして傍観者に徹する合理的行動を選択するのではなく、自らコストを支払って集団の利に供する傾向をもつことが明らかになった。さらに制度を守らないフリーライダーに対する「監視ボランティア」の導入が、集団的な環境配慮行動の実現に有効であるという実験結果が提示された。これについては大島研究者が研究年報のかたちで平成 23 年度に「繰り返しボランティア・ジレンマ・ゲームの実験的検討」^{*20}、平成 25 年度に「社会的ジレンマにおける「監視ボランティア」の可能性と有効性」^{*21}で報告した。

継続して行っている、サステイナブルな心性を主観的幸福の観点から調査する研究では、文化間の差異を踏まえた上での、サステイナブルな心性および行動を測定するための適切な尺度を探求し、サステイナブルな心性と主観的な well-being (幸福感)との間に関連があることを明らかにしていった。尺度の作成については、平成 25 年度に行った Web 調査等によって、文化間、世代間、性別間などの観点を精緻にすることで改定を行っていった。この研究成果については堀毛研究者が年報や学会発表等のかたちで、毎年報告している。

平成 25 年度から開始された環境配慮行動に関する実験では、他者が行っているのを見かける環境配慮行動においては、自身の実践が平均的な他者よりも高いと評価する平均以上効果が、反対に、普段は見かけない環境配慮行動においては平均以下効果が生じることが示された。この実験と分析から、平均以上効果については他者平均の実際値の提示が、平均以下効果には自尊感情を高めることが有効であるという結論を導き、研究成果を、大久

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

保研究員が東垣氏との共著で平成 26 年度の研究年報に「環境配慮行動の実行可能性認知と困難度の関係」*22として掲載した。

第3ユニット(環境デザインユニット)

「環境デザインユニット」では、環境問題への対策として、既存の行動抑制型の課題設定ではなく、問題の構造を分析し、その固有のシステムが再編、拡張するようなアイデアを導入することによって、都市環境、身体環境、生活環境とそれへの意識を変化させ、結果的に問題解決を実現させることを目的とした。

現実の複雑な状況から意識や身体を変容するための工夫を行うためには、フィールドワークや、非言語的領域からのアプローチが不可欠となるため、現地調査や、医学の臨床研究、そして専門家を招いてのワークショップなどを積極的に行った。

1. 都市環境デザインの構築

2011年3月の東日本大震災によって、日本の環境問題も大きな転換を余儀なくされ、その思想的基盤となるエコ・フィロソフィの果たす役割もより重要なものとなった。平成 23 年度開催のシンポジウム「生物多様性という課題－東日本大震災からの復興を視野に」*23において、「里山」「里海」の生態系サービスの持続可能性を目指した復興のための環境デザインを提案すると共に、実現のための現実的課題の精査が行われた。平成 26 年度開催の国際シンポジウム「ドイツ文化とエコロジー」*24では、ウィーン大学教授の G.シュテンガー教授を招き、西洋の最新の技術論研究や、ドイツの環境政策を参考にして、日本の農林業やエネルギー政策について議論し、両国の文化の独自性を考慮しつつも、相互に有効である要素を抽出し、持続可能なネットワーク形成のかたちを提案した。同年に行った第 1 ユニットとの合同シンポジウム「大地の思想－風水・聖地・里山－」*6では、人間の持続可能性を高める里山の歴史を東洋思想の各地域から分析したうえで、人間の経験や能力を拡張する現代の里山のかたちとしての「人工的里山」による都市環境デザインの諸可能性を提示した。

地域に根ざした環境デザインの現状と実践可能性を探求するために、SSC と連携しつつ、別ユニットと合同での視察を行った。平成 24 年度には、地域の自然を活かし、水源や道の駅によって自然環境価値の創出に取り組んでいる山梨県道志村の視察*25を行い、また、国策として環境政策に取り組む韓国のスマートグリッド化計画の実証実験地である済州島の視察*26を行った。平成 25 年度には、日本における自然エネルギーのオルタナティブである地熱発電の可能性を探るべく、アメリカ合衆国カリフォルニア州にある世界最大の地熱発電所である Calpine Geothermal の視察*27を行った。同じく地熱発電については、平成 26 年度に八丈島を訪れ、アメリカ、インドネシアに次ぐ世界第三位の潜在エネルギーをもつ日本の地熱発電が、未だ都市環境のシステムとして十分に機能するに足りていない現状を確認した。平成 27 年度には、モンゴルの都市環境および、伝統的な遊牧生活*28の視察を行い、非定住型の生活環境がもつ独自の感度の一端を体験するとともに、急速な経済発展と人口増加を遂げた首都ウランバートルでの、伝統と文明化の過渡期にある混然とした都市環境の現状を確認した。

平成 26 年度に、福島県被災地視察*29を行い、居住禁止区域の現状と仮設住宅に住む人々の生活環境を調査し、避難者の日常の生活環境の展開可能性の狭さがもたらす精神的、社会的影響の重要性を確認するとともに、南相馬ソーラー・アグリパーク等での、民間で行っている復興のための意欲的な環境デザインを体験し、震災被害を、被災者のみならず、いかにして社会全体のシステムのなかへと有効に組み込むことができるのかについて、意見交換を行った。また、この視察を経て、同行したウィーン大学の G.シュテンガー教授らと共に、平成 27 年度に国際シンポジウム「after our Fukushima」*30を開催し、原発事故を含む震災に対して哲学の立場から可能な役割として、エコ・フィロソフィが提示する復興の自己組

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

織化について議論がなされた。その自己組織化の要因として、日本独自の文化や芸術表現が有する可能性を見出した。

2. 身体環境の拡張

環境問題の解決の方法として、現象学、身体論、システム論を基に、環境内での人間の能力の再生、拡張を促す環境設定を探求した。主な課題は、固執した環境と意識の関係を解消し、経験の可能性や行為の選択肢を拡張するための、身体性の自覚をもたらす非言語的な環境デザインの実践である。

毎年開催している「人間再生研究会」^{*31}では、障害者医療の臨床を通じて、意識、身体、環境の関係を分析し、新たな治療方法の確立と、その展開として社会全体の能力拡張の可能性を目指す「神経現象学リハビリテーション研究」に取り組んだ。例年、専門家を招いての脳科学や神経医学の最新の研究成果の報告を受けると共に、臨床家による事例報告会によって、有効な治療のためのフィードバックを行っている。

平成 24 年度のシンポジウム「天命はなお反転する 人間再生のための環境—荒川修作＋マドリン・ギンズとともに」^{*32}では、建築環境がもたらす能力再生を意図的に行っていた荒川修作の環境デザインの意義について議論し、平成 26 年度にはニューヨーク州にある荒川修作関連施設を視察^{*33}することで、荒川が志向した一建築にとどまらない都市全体の生活環境デザインを確認するとともに、9.11 テロを経たニューヨークの都市環境デザインがもたらす生活環境の変容可能性の一端を体験した。

日常生活で行う動作に介入することで経験の稼動域の拡張を促す教育のかたちとして、アーティスト等を講師に招き、ワークショップを行った。平成 23 年度「ウォーキング・ビューティ—」^{*34}では歩行動作の再発見をテーマにし、平成 26 年度と 27 年度の「即興ダンス・ワークショップ」では、日常動作の速度や設定の変更による、重力や反作用への気付きをとおして自己の身体の内部感覚や、他者を含む外部環境との創発性についての意識を拡張していった。言語化しがたい領域での身体感覚については、舞踊家の田中泯氏や和栗由紀夫氏を招いてのワークショップにおいてその内実に迫り、言語と非言語の境界を、身体性を頼りに行き来することで得られる環境への感度と態度の充実について、共通認識を得た。

平成 27 年度に開催したシンポジウム「かおりの生態学」^{*9}では、自然科学的な実証性に基づいて、生態系内における香りのもたらす影響度について報告され、これまで注目されることのなかった嗅覚的アプローチによる環境デザインの可能性が開示された。この香りによる生態系の循環作用は、動植物の自然環境のみならず、人間の身体性を踏まえた生活環境への応用可能性を有するものとされた。

これらの研究成果は研究年報や学会発表のかたちで報告すると共に、非言語的な研究成果を適切なかたちで表現するための映像作品として、平成 24 年度には『テンダー・エマージェンス——来るべき自己へ』・『モア・ディヴェロップメント——』^{*35}を、平成 26 年度には『イノセント・メモリー —身体記憶の彼方へ』^{*36}を作成し、シンポジウム上でも舞台作品として発表した。

ユニット間の連携

第 1 ユニットが行う主に文献研究による自然観探究は、本プロジェクトの基礎となる研究であり、この研究を基に、第 2 ユニットの文化間の価値観比較や、第 3 ユニットの都市環境デザインの分析や実践のための指針がつけられている。同時に第 2 ユニット、第 3 ユニットの研究から浮かび上がった問題に対し、第 1 ユニットの研究がこれを思想的に補助することも行っており、とりわけシンポジウムに関しては、第 2 ユニットの妖怪学研究や、第 3 ユニットの里山研究などがそれに当たる。同時に、実践的価値を重視する第 2 ユニット、第 3 ユニットの研究には、現実の複雑な問題への検討は不可欠なものであり、第 1 ユニットは、伝統的自然観が現

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

実にどのようなかたちで現れているのかについても探究を行った。他ユニットと合同で行った現地視察によって体験知を得たほかに、シンポジウムとしては、「人間と自然の共生と持続可能な関係を求めて－風土のしらべから」*4 や、「宗教と環境シンポジウム－新しい文明原理の生活化と宗教」*5 などが特にそれに当たる。

第 2 ユニットと第 3 ユニットの連携については、第 2 ユニットの価値意識に関する調査・実験によって明らかになったジレンマの構造が、いかなる環境デザインによって解決可能となるのかというかたちで行われており、心理的な要因と、その根源となる制度や身体性の両面から、環境問題解決のための環境設定を提示した。

環境教育については、エコ・フィロソフィの有する学際性を重視して、各ユニット長を中心に、最大の教育効果をあげるためのバランスの良い講義設定を検討し、PD や PRA の教育についても、各ユニットの専門分野から採用することで、互いの研究手法を学びあう体制をつくった。

<優れた成果があがった点>

エコ・フィロソフィの確立と教育において特に優れた成果といえるのは、本プロジェクトの研究員及び連携機関の研究者、さらにシンポジウム、研究会の講師等が執筆し刊行した二冊の教科書と、全学部学生に向けて開講した全学総合講義「エコ・フィロソフィ入門」*1 である。

平成 24 年度に編集・出版した、『エコロジーをデザインする－エコ・フィロソフィの挑戦』*37 では、15 名の執筆者が、里山、里海、ゴミ処理、水資源、生産・消費活動、建築、健康などの視点から、自然、社会ネットワーク、身体の関係を探求し、経済的発展ではない多様な豊かさを増大させていくかたちで、持続可能な社会のための未来のデザインを提案した。

平成 27 年度に編集・出版した『エコ・ファンタジー－環境への感度を拡張するために』*38 では、23 名の執筆者(共同執筆を含む)が、人間の生存にとって重大な問題であるはずのエコロジーが、そのスケールの大きさゆえに危機の実感がもてず、実践につながるほどの魅力をもていない現状に対して、その停滞の原因を分析するとともに、地球規模のマクロな問題を、生活や身体感覚といったミクロな問題へとつなげていくためのイメージ形成や環境設定の方法が提示された。

全学総合講義「エコ・フィロソフィ入門」*1 では、プロジェクト期間中毎年にもわたって、東洋大学全学部学生を対象にした双方向型のインターネット授業を行った。講義は、本プロジェクト研究員や連携研究者によるオムニバス形式で行い、上記の本プロジェクトで刊行した書籍を教科書とした。全学部あわせて例年 250 名程度の学生が受講し、環境学や哲学の初学者に対して、サステナビリティ学の基本理念から、エコ・フィロソフィの実践まで、体験知と自己分析を重視した教育を行った。主な教育方針は、地球温暖化に対する自然環境保護といった既存の環境イメージを、海洋、宇宙、身体、他者、生活にまで拡張することで、環境を自身に身近なものとして再認識すること、そしてエコ・フィロソフィの実践に必要な、自ら考えて行動する哲学的能力を養い、環境問題に処するとともに、自らの生の基盤になりうる思想を模索する手段と意義を教えることであった。そのために、毎回の授業でミニレポートを実施し、講義内容と自身の生活を結び付けるための自由記述をさせ、最新のエコロジー研究の知識だけでなく、体験的に環境との関係を深めていく方法をとった。

<課題となった点>

エコ・フィロソフィによる環境問題に資する思想的アプローチの実践は、現代の喫緊の課題である以上、学問研究の枠を越えて、一般社会に還元されるべきものであるが、外部評価委員の指摘にもあるように、この点について、研究内容の専門性や難解さが、市民へのアウトリーチの妨げになっていた。刊行した二冊の教科書はそれを補うためのものではあるが、公開シンポジウムやニュースレター、ホームページ等においても、研究内容をわかりやすく伝える

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

余地があった。具体的には、第 1 ユニットについては文献研究の専門性、第 2 ユニットについてはアジア諸地域の価値観の統合比較、第 3 ユニットについては身体表現の言語化が、一般市民に還元するという点では不十分であった。ただし、学生に対して行った講義やワークショップでは、非専門家に対する教育の実績をあげることができたため、これらの体験的教育を一般社会に適用する機会をいかにしてつくりだすのかが、課題の本質であると考えられる。

本プロジェクトの活動の独自性ゆえに、エコ・フィロソフィに対応する海外の研究及び研究機関は存在しない。そのため、共同研究についても、プロジェクト全体ではなく、個々の側面での連携というかたちをとらざるをえず、エコ・フィロソフィのグローバルな発信は十分なものとはいえなかった。この点については、稲垣諭研究員の第 23 回世界哲学会議^{*3}での発表などを行ったが、プロジェクト主催のシンポジウム等のかたちで海外でイベントを行うには至らなかった。

＜自己評価の実施結果と対応状況＞

定期的開催する運営委員会において、活動報告とそれに関わる予算執行額の明細を開示し、内容を検討した。人件費や視察費用についても、事前事後に報告を行った。開催したイベントについては、その内容を受けて、その後にかたちで成果とするかを検討し、論文執筆依頼、研究年報別冊での掲載形式の選定、継続開催の要などを決定した。ユニット間の予算配分については、企画案を基に、プロジェクト全体として最大の成果をあげられるよう、ユニット間の審議の上で決定された。予算配分は年度初めに決定するが、活動の状況を見て適宜変更も行った。平成 26 年度以降の意識調査の業務委託については、調査結果がプロジェクト全体にもたらすと期待される内容を考慮した上で、業務委託費と、プロジェクト期間中にデータ解析を終了させるために必要な人員と労力を加味し、これを行わなかった。

＜外部(第三者)評価の実施結果と対応状況＞

3 名の委員(学内 1 名、学外 2 名)からなる外部評価委員会を設置し、各年度末に評価委員会を開催している。委員会では、センター長から当該年度の活動実績が報告されると共に、各ユニット長による研究成果の説明を行い、その後、活動状況に対する質疑応答を経て、今後の活動方針について、委員から意見を伺い、後日改めて評価書への記入を求めている。この評価に基づき、運営委員会において課題等を検討し、次年度の活動方針を決定した。特にユニット間の連携を明確にした合同シンポジウムと視察を重視した点や、ホームページでの動画公開等による一般社会へのアウトプットについて改善を行った。

評価委員によるプロジェクト全体に対する平成 23 年度から平成 27 年度までの年度ごとの評価(A、B、C、D)は以下ようになった。

北脇秀敏(東洋大学副学長)

A、A、A、A、A

住正明(国立研究開発法人国立環境研究所)

B、A、A、A、A

柘植綾夫(公益社団法人 日本工学会 会長)

A、A、A、A、B

＜研究期間終了後の展望＞

合計 11 年間の活動による研究成果と研究ネットワークを活用した発展的継続のかたちとして、今後はエコ・フィロソフィのグローバルな展開を目指す。具体的には以下の5つの課題を設定する。(1)「高齢者、障害者、避難者の環境設定」では、リハビリテーションの現象学的実践による能力の再生と拡張を目指す。(2)「生態学的環境デザインのイノベーション」では、

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

自然科学の先端の成果を取り入れながら、新たな生態学的システムの可能性を提示する。(3)「自然哲学のイノベーション」では、シェリング、ダーウィン、ヴァイツゼッカー、ホワイトヘッドらによるさまざまな自然構想を素材としながら、自然哲学の可能性を拡張していく。(4)「環境学システムワーク」では、環境問題のオルタナティブとしての環境法、環境経済、環境金融等のさまざまな試みを分析しながら、環境問題への社会的対応の仕組みを検討する。(5)「文化的環境の探求」では、文献研究やフィールドワークによって、思想、文学、芸術作品等に現れる自然観を探求する。日本の文化人類学では柳田國男や南方熊楠を素材とし、インドネシアの宗教図像と儀礼に関する現地調査と文献研究からは、ヒンドゥー教および仏教の受容と変容の過程を明らかにしていくことで、文化的な環境設定を構想する。

これらの研究を有機的に連携させていくことによって、最新の哲学や科学の成果を踏まえた、西洋思想と東洋思想の融合を推進し、エコロジー研究と教育のグローバルな拠点として情報を発信していく。

<研究成果の副次的効果>

毎年開催している人間再生研究会^{*31}では、NPO 神経現象学リハビリテーション開発機構と連携し、臨床家を交えて研究を行うことによって、障害者に対する有効なリハビリテーションの方法論を追求、実践している。

東日本大震災復興に関しての諸種の提言や、シンポジウムにおけるパネル運営による成果を実践につなげることで、被災者の生活環境が改善することが期待される。

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- | | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------|---|
| (1) <u> エコロジー </u> | (2) <u> 共生 </u> | (3) <u> サステナビリティ </u> |
| (4) <u> 自然観 </u> | (5) <u> 価値観 </u> | (6) <u> 環境デザイン </u> |
| (7) <u> 環境哲学 </u> | (8) <u> 環境教育 </u> | |

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

●2016年

1. 唐澤太輔 「那智山における超感覚的知覚現象—南方熊楠による記述と『ヒューマン・パーソナリティ』との比較を通じて—」『「エコ・フィロソフィ」研究』第10号、pp.35-52、2016年3月、(無)
2. 河本英夫 「フクシマ・レヴィジテッド」『「エコ・フィロソフィ」研究』第10号、pp.99-108、2016年3月、(無)
3. 河本英夫 「生命の異系——モンゴル」『「エコ・フィロソフィ」研究』第10号、pp.109-122、2016年3月、(無)
4. 河本英夫 「造形力学——パウル・クレー」『白山哲学』第50号、2016年3月、(無)
5. 緒方登士雄 「知的障害児・者への「身体介助」の意義の検討:身体介助から動作援助への転換とコミュニケーション事象としての動作援助過程」『「エコ・フィロソフィ」研究』第10号、pp.123-132、2016年3月、(無)
6. 武藤伸司 「現象学と自然科学の相補関係に関する一考察(2)」『「エコ・フィロソフィ」研究』第10号、pp.133-142、2016年3月、(無)
7. 武藤伸司 「「身体学」の研究課題」『東京女子体育短期大学紀要』第51号、2016年3月、(有)

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

8. Dai Iwasaki, “The Significance of Views on Nature in Forming Views on Life and Death”, *Eco-Philosophy Vol.10*, pp.173-182, March.2016, (無)
9. 山本亮介 「動物とロックンロール——古川日出男の想像力——」『「エコ・フィロソフィ」研究』第10号、pp.11-22、2016年3月、(無)
10. 田村義也 「南方熊楠とアンリ・ファーブル—キノコ図譜を軸とした対比の試み—」『「エコ・フィロソフィ」研究』第10号、pp.23-34、2016年3月、(無)
11. 王 媛 「唐代の筆記にみられる異界と夢境と音楽—「霓裳羽衣」の成立物語をめぐる—」『「エコ・フィロソフィ」研究』第10号、pp.53-66、2016年3月、(無)
12. 野村英登 「陽明学の近代化における身体の行方：井上哲次郎の中江藤樹理解を中心に」『「エコ・フィロソフィ」研究』第10号、pp.67-74、2016年3月、(無)
13. 坂井多穂子 「楊萬里と蘇軾——次韻詩と隲括詩——」『橄欖』第20号、2016年3月、(有)
14. 河本英夫 「宇宙の弾力—哲学史からのエッセイ」『JAXA 人文社会科学連携活動報告』、2016年2月、(無)

●2015年

15. 江利川滋・山田一成 「Web 調査の回答形式の違いが結果に及ぼす影響—複数回答形式と個別強制選択形式の比較—」『社会心理学研究』第31号、pp.112-119、2015年12月、(有)
16. 永井 晋 「「東洋哲学」とは何か—西田幾多郎と井筒俊彦の「東洋」概念」『比較思想から見た日本仏教』、pp.299-322、2015年12月、(無)
17. 山本亮介 『「キタ・セクスアリス」における権力と主体』『文藝と批評』12(2)、pp.41-51、2015年11月、(無)
18. 大塚公一郎・稲垣 諭 「眼差し、声、規範の観点からみた自閉スペクトラム症の反社会的行為」『臨床精神病理』36(3)、pp.245-262、2015年12月、(無)
19. 唐澤太輔 「「裏日本」文化論」『ロゴスドン』(web 雑誌連載)、<http://www.nu-su.com/seimei.html>、2015年4月-現在、(無)
20. 河本英夫 「エコ・フィロソフィとは何か」『「エコ・フィロソフィ」研究』第9号、pp.11-24、2015年3月、(無)
21. 河本英夫 「イーストコースト・エクスプレス」『「エコ・フィロソフィ」研究』第9号、pp.177-192、2015年3月、(無)
22. 河本英夫 「ファンタスティックロード——熊野」『「エコ・フィロソフィ」研究』第9号、pp.193-206、2015年3月、(無)
23. 河本英夫 「大地の熱——八丈島」『「エコ・フィロソフィ」研究』第9号、pp.207-218、2015年3月、(無)
24. 河本英夫 「システムの制作のプロセス - デヴィッド・リンチ」『日本病跡学会雑誌』第90号、pp.24-33、2015年3月、(無)
25. 河本英夫 「ラディオアクティヴ奥の細道」『白山哲学』第49号、pp.49-64、2015年3月、(無)
26. 岩崎 大 「エコロジー教育における哲学の役割—「エコ・フィロソフィ入門」の取り組み」『「エコ・フィロソフィ」研究』第9号、pp.25-34、2015年3月、(無)

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

27. 相楽 勉 「初期日本哲学における「自然」の問題」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 9 号、pp.37-50、2015 年 3 月、(無)
28. 田村義也 「田中神社の手水鉢：南方熊楠の未成熟な言語」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 9 号、pp.51-60、2015 年 3 月、(無)
29. 早川芳枝 「入れ替わる「親」と「子」、そして「語り手」——中上健次『地の果て至上の時』論」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 9 号、pp.75-88、2015 年 3 月、(無)
30. 西村 玲 「『金光明経』にみられる自然観」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 9 号、pp.89-96、2015 年 3 月、(無)
31. 王 媛 「唐代の宮廷に響く異国の旋律—四方楽—」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 9 号、pp.97-108、2015 年 3 月、(無)
32. 野村英登 「玉利喜造の靈気説からみる自然と身体」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 9 号、pp.109-118、2015 年 3 月、(無)
33. 堀毛一也・大島 尚 「サスティナビリティと主観的 well-being の関連について—web 調査による分析結果」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 9 号、pp.139-150、2015 年 3 月、(無)
34. 大島 尚・堀毛一也 「環境問題とコミュニティ主義—社会関係資本からの検討—」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 9 号、pp.151-166、2015 年 3 月、(無)
35. 武藤伸司 「現象学と自然科学の相補関係に関する一考察(1)」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 9 号、pp.235-248、2015 年 3 月、(無)
36. 増田隼人 「暗黙知及びハビトゥスとの関連における習慣と身体の考察」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 9 号、pp.249-257、2015 年 3 月、(無)
37. 唐澤太輔 「南方熊楠と「テレパシー」という言葉に関する考察」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 9 号、pp.61-74、2015 年 3 月、(無)
38. 山本亮介 「日本大使館と柳沢健」『両大戦間の日仏文化交流』、ゆまに書房、pp.225-236、2015 年 3 月、(無)
39. 山本亮介 「清岡卓行—異郷の野球」『〈異郷〉としての大連・上海・台北』、勉誠出版、pp.126-137、2015 年 3 月、(無)
40. 安藤清志 「災害における「喪失」と社会：ill-being から well-being へ」『モチベーション研究』4、pp.35-43、2015 年 3 月、(無)
41. 安藤清志 「「マインド・コントロール」に対抗する」『現代人の心のゆくえ4』、pp.73-102、2015 年 3 月、(無)
42. 坂井多穂子 「中華文人のユーモア——抒情を壊す詩人」『改革者』2 月号、pp.48-49、2015 年 2 月、(無)

●2014 年

43. 山本亮介 「金星堂編集部員飯田豊二の活動—出版機構とアナキズム—」『東洋通信』51(5)、pp.37-49、2014 年 12 月、(無)
44. 山田一成・江利川滋 「Web 調査における Visual Analogue Scale の有効性評価」『東洋大学社会学部紀要』52(1)号、pp.57-70、2014 年 11 月、(無)
45. Shin, Nagai "Phénoménologie de la virtualité", in: Metodo. International Studies in Phenomenology and Philosophy, Thematic Issue on "Virtuality", Edited by Metodo

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

Associazione, Milano, Italy, pp.17-29, November 2014、(有)

46. 田村義也 「辛抱の神が宿る日記 —南方熊楠の日記管見」『アナホリッシュ国文学』第 7 号、pp.7-19、2014 年 10 月、(無)
47. 河本英夫 「『飽き』は個性を伸ばす好機」『Training Journal』、pp.12-20、2014 年 8 月、(無)
48. 早川芳枝 「〈物語〉の敗北—中上健次「ヨウレボシ」と「勝浦」」『東洋通信』第 51 巻第 2 号、pp.26-35、2014 年 6 月、(無)
49. 坂井多穂子 「中華文人のユーモア」『改革者』6 月号、pp.50-51、2014 年 6 月、(無)
50. 河本英夫 「触覚性コスモス」『慶應義塾大学アート・センター Booklet』Vol.22、pp.12-22、2014 年 4 月、(有)
51. 河本英夫 「システムの精神病理」『臨床精神病理』Vol.35、pp.51-58、2014 年 4 月、(有)
52. 河本英夫 「柳田國男の農業文化環境論 1」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 8 号、pp.11-20、2014 年 3 月、(無)
53. 河本英夫 「ウエスト・コースティング」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 8 号、pp.105-116、2014 年 3 月、(無)
54. 河本英夫 「エコ・スペクトラム 1—「環境金融論」解題」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 8 号、pp.117-122、2014 年 3 月、(無)
55. 河本英夫 「セルフ・セットアップ—記憶への旅立ちの日々に」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 8 号、pp.173-180、2014 年 3 月、(無)
56. 山本亮介 「「語り手」という動物—小説の言語行為をめぐる試論」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 8 号、pp.21-32、2014 年 3 月、(無)
57. 田村義也 「南方熊楠と曖昧な「エコロジー」: 序説」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 8 号、pp.35-46、2014 年 3 月、(無)
58. 唐澤太輔 「今、神道を見直す—Something Great への感嘆と崇敬の念—」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 8 号、pp.47-60、2014 年 3 月、(無)
59. 王 媛 「散楽から舞楽へ—芸能伝承の視点から」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 8 号、pp.61-74、2014 年 3 月、(無)
60. 大島 尚 「社会的ジレンマにおける「監視ボランティア」の可能性と有効性」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 8 号、pp.77-94、2014 年 3 月、(無)*21
61. 大久保暢俊・東垣絵里香 「環境配慮行動の実行可能性認知と困難度の関係」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 8 号、pp.95-102、2014 年 3 月、(無)*22
62. 岩崎 大 「死生観と自然観をつなぐ環境デザイン—ホスピスにおける風景の意義」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 8 号、pp.125-138、2014 年 3 月、(無)
63. 稲垣 諭 「プロセスとしての臨床(1)—ナラティブという経験は何を示唆するのか」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 8 号、pp.139-152、2014 年 3 月、(無)
64. 稲垣 諭 「プロセスとしての臨床(2)—臨床内存在の現象学」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 8 号、pp.153-172、2014 年 3 月、(無)
65. 岩崎 大 「日本的「死の隠蔽」の構造分析—ぼっくり願望の現在—」『東洋学研究』第 51 号、pp.235-250、2014 年 3 月、(有)
66. 武藤伸司 「F.J.ヴァレラの神経現象学における時間意識の分析(3)—ヴァレラによる新たな時

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

間図式の考察—『東洋大学大学院紀要』第 50 集、pp.23-38、2014 年 3 月、(有)

67. 西村 玲 「日本近世における不殺生思想—雲棲株宏の受容と影響—」『印度学仏教学研究』62-2、2014 年 3 月、(有)
68. 西村 玲 「明末の不殺放生思想の日本受容—雲棲株宏と江戸仏教—」『奥田聖應先生頌寿記念インド学仏教学論集』、pp.1033-1042、2014 年 3 月、(無)
69. 西村 玲 「近世律僧の思想と活動—インド主義を中心として」『佛教文化研究』第 58 号、pp.17-30、2014 年 3 月、(無)
70. 田村義也 「柳田国男と南方熊楠」『民俗学研究所紀要』第 38 集、pp.1-20、2014 年 3 月、(無)
71. 早川芳枝 「「夜長姫と耳男」論—発想の源泉としての長者伝説と『飛騨匠物語』—」『日本文学文化』第 13 号、pp.110-121、2014 年 2 月、(無)
72. 山本亮介 「小説世界の音楽をめぐる—考察—村上春樹作品を題材に—」『文学論藻』(88)、pp.109-129、2014 年 2 月、(無)
73. 早川芳枝 「「建国の聖地」比定運動に見る統合と分裂—鳥見霊時の顕彰運動を一例に」『東洋通信』第 50 巻・第 10・11 号、pp.18-26、2014 年 1 月、(無)

●2013 年

74. 武藤伸司 「『ベルナウ草稿』における未来予持と触発—意識流の構成における未来予持の必然性を問う—」『現象学年報』第 29 号、pp.157-166、2013 年 11 月、(有)
75. 永井 晋 「神名の沈黙と語ること—動きの現象学」『哲学論集』第 42 号、pp.1-14、2013 年 10 月、(有)
76. TAMURA Yoshiya, 'The English Essays of Minakata Kumagusu — Centering on his Contributions to "Nature"', "Discuss Japan", No.16, Oct, 2013、(無)
77. 田村義也 「南方熊楠と『Nature』誌」『科学』第 83 巻 8 号、pp.894-900、2013 年 8 月、(無)
78. 永井 晋 「生命の自己形象化—形而上学としての藤山作品—」『TAKASHI FUJIYAMA WORKS1976-2008』、pp.82-84、2013 年 8 月、(無)
79. 鈴木淳子・安藤清志・今井芳昭・南 隆男 「消費者行動と欺瞞的説得」『産業・組織心理学研究』第 26 巻、pp.187-193、2013 年 3 月、(有)
80. 稲垣 諭 「整形外科系疾患に対するリハビリテーション治療(C. Perfetti)」『認知神経リハビリテーション』第 12 号、pp.3-22、2013 年 3 月、(有)
81. 河本英夫 「チェジュ記——石と風と光へ」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 7 号、pp.93-102、2013 年 3 月、(無)
82. 河本英夫 「農のシステム」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 7 号、pp.73-82、2013 年 3 月、(無)
83. 河本英夫 「一生「東の間の少年」であること1」『白山哲学』第 48 号、pp.91-109、2013 年 3 月、(無)
84. 永井 晋 「フランス現象学の<神学的転回>: 受肉・テキスト・イメージ」『宗教哲学研究』第 30 号、pp. 19-36、2013 年 3 月、(無)
85. 西村 玲 「日本における須弥山論争の展開」『印度学仏教学研究』第 61 巻第 2 号、pp.679-683、2013 年 3 月、(有)

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

86. 野村英登 「佐藤一斎における自然観と修養法」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 7 号、pp.39-48、2013 年 3 月(無)
87. 野村英登 「明治大正期における“中国哲学”の構築と静坐の実践」『宗教研究』86 巻 375 号、pp.367-368、2013 年 3 月、(無)
88. 大久保暢俊 「環境配慮行動と平均以上効果」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 7 号、pp.51-70、2013 年 3 月、(無)
89. 大島 尚 「社会関係資本の測定とその意義について」『現代人のこころのゆくえ』第 3 号、pp.83-102、2013 年 3 月、(無)
90. 坂井多穂子 「楊萬里の「喜雨」詩について」『東洋大学中国哲学文学科紀要』第 21 号、pp.89-109、2013 年 3 月、(無)
91. 竹村牧男 「環境倫理と宗教思想——仏教思想の課題について」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 7 号、pp.9-20、2013 年 3 月(無)
92. 竹村牧男 「親鸞と『大乘起信論』——報身・報土の問題を中心に」『東洋の思想と宗教』第 30 号、pp.75-94、2013 年 3 月、(有)
93. 竹村牧男 「『大乘起信論』の人間観」『東アジア仏教学術論集——韓・中・日国際仏教学術大会論文集』第 1 号、pp.1-16、2013 年 3 月(無)
94. 山田利明 「理想の大地—福地の思想」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 7 号、pp.83-91、2013 年 3 月、(無)
95. 山田利明 「謫仙の構造」『東洋大学中国哲学文学科紀要』第 21 号、pp.43-60、2013 年 3 月、(無)
96. 山村(関)陽子 「環境教育におけるネイチャーライティングの意義—「エコロジー的理性批判」(K.Eder)から—」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 7 号、pp.21-38、2013 年 3 月、(無)
97. 西村 玲 「日本における須弥山論争の展開」『印度学仏教学研究』61-2、pp.679-683、2013 年 3 月、(無)
98. 西村 玲 「中村元の日本思想史研究——東方人文主義」『比較思想研究』40、pp.90-98、2013 年 3 月、(無)
99. 武藤伸司 「F.J.ヴァレラの神経現象学における時間意識の分析(2) —神経ダイナミクスの駆動と未来予持—」『東洋大学大学院紀要第 49 集』、pp.43-57、2013 年 3 月、(有)
100. Hideo Kawamoto “Chaos, Autopoiesis and/or Leonardo da Vinci/Arakawa”, in: J.Keane & T. Glazebrook, Arakawa and Gins, a special issue of Inflexions, Inflexions Journal, No.6, pp.103-111, Feb. 2013, (有)
101. 堀毛一也 「持続可能な幸福への心理学的アプローチ」『季刊環境研究』第 169 号、pp.35-43、2013 年 2 月、(無)

●2012 年

102. 西村 玲 「慧命の回路—明末・雲棲株宏の不殺生思想—」『宗教研究』第 374 号、pp.27-48、2012 年 12 月、(有)
103. 河本英夫 「アレンジメント 1——神経現象学リハビリテーションの難題」『神経現象学リハビリテーション研究』No.1、pp.1-16、2012 年 11 月、(有)
104. 河本英夫 「臨床美術の可能性」『臨床美術ジャーナル』第 1 巻 1 号、pp.33-40、2012 年 10 月、

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

(有)

105. 稲垣 諭 「組織化としての体験」『神経現象学リハビリテーション研究』第 1 号、pp.45-57、2012 年 10 月、(有)
106. 河本英夫 「生命システムの論理」『現代思想』2012 年 8 月号、pp.132-143、2012 年 7 月、(無)
107. 野村英登 「莊子と武芸—“道”へ至る身体技法 —」『東洋文化研究』第 10 号、pp.110-135、2012 年 6 月、(有)
108. 西村 玲 [翻訳] 「キゲンサン・リチャ書評 "Bernard Faure, Michael Como and Iyanaga Nobumi, eds. Rethinking Medieval Shintō, Cahiers d'Extrême-Asie 16, Kyoto: École française d'Extrême-Orient, 2006,x+387 pages."」『日本仏教総合研究』第 10 号、pp.299-205、2012 年 5 月、(有)
109. 堀毛一也 「サスティナブルな心性と行動の関連に関する予備的検討—sustainable well-being への心理学的アプローチ」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 6 号、pp.57-72、2012 年 3 月、(無)
110. 稲垣 諭 「経験の記述—働きの存在論 ドゥルーズ・ガタリとオートポイエーシスの分岐(1)」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 6 号、pp.91-107、2012 年 3 月、(無)
111. 稲垣 諭 「身体行為のメカニズム(2)—身体運動発現の現象学的機構をめぐって—」『白山哲学』第 6 号、pp.135-159、2012 年 3 月(無)
112. 河本英夫 「復興のデザイン」『エコ・フィロソフィ研究別冊』第 6 号、pp.61-80、2012 年 3 月、(無)
113. Hideo, Kawamoto “Chaos, Autopoiesis and/or Leonardo da Vinci/Arakawa”, Eco-Philosophy, Vol.6、pp.85-89、2012 年 3 月、(無)
114. 河本英夫 「詩人という使命 I」『白山哲学』第 46 号、pp.111-134、2012 年 3 月、(無)
115. 西村 玲 「不殺生と放生会」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 6 号、pp.47-53、2012 年 3 月、(無)
116. 西村 玲 「雲棲株宏の不殺生思想」『宗教研究』第 371 号、pp.341-342、2012 年 3 月、(無)
117. 大島 尚 「繰り返しボランティア・ジレンマ・ゲームの実験的検討」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 6 号、pp.73-81、2012 年 3 月、(無)*20
118. 大島 尚・谷口尚子 「大学と大学生の地震防災対策—東日本大震災を挟んだ調査から」『東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報』第 9 号、pp.83-97、2012 年 3 月、(無)
119. 坂井多穂子 「白居易の戯題詩—他を妬きて心火に似たり」『中国文史論叢』、第 8 号、pp.71-82、2012 年 3 月、(有)
120. 坂井多穂子 [訳注] 「戴復古五律譯注(Ⅱ)」(宋代詩文研究會江湖派研究班)『江湖派研究』第 2 号、pp.125-130、2012 年 3 月、(無)
121. 竹村牧男 「共に生きるいのちのつながり—仏教の見方から—」『点から線へ』第 60 号、pp.112-150、2012 年 3 月、(無)
122. 山田利明 「神禾原—消えた森林—」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 6 号、pp.9-19、2012 年 3 月、(無)
123. 山田利明 「三宅元珉『老子道德経会元』提要」『東洋大学中国哲学文学科紀要』第 20 号、pp.19-34、2012 年 3 月、(無)

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

124. 山口一郎 「無意識の明証性をめぐって」『白山哲学』第 46 号、pp.93-109、2012 年 3 月、(無)
125. 山村(関)陽子 「C・ダーウインの自然観—『種の起源』における「闘争(Struggle)」概念と分岐の原理から」『「エコ・フィロソフィ」研究』第 6 号、pp.21-45、2012 年 3 月、(無)
126. 永井 晋 「雅歌の形而上学／生命の現象学」『現代思想』2012 年 3 月臨時増刊号、pp.300-313、2012 年 2 月、(無)
127. 野村英登 「鍛える身体から感じる身体へ —東洋的身体観における近代性の密輸入について—」『東洋文化研究』第 9 号、pp.269-286、2012 年 2 月、(有)
128. NISHIMURA Ryo “The Intellectual Development of the Cult of Sakyamuni: What is “Modern” About the proposition that the Buddha Did Not Preach the Mahayana?” The Western Buddhist Society『The Eastern Buddhist』 new series vol.42 No.1、pp.9-29、January, 2012、(有)

●2011 年

129. 河本英夫 「経験の可能性の拡張とレジリアンス」『日本病跡学会誌』第 82 号、pp.15-22、2011 年 12 月、(有)
130. 河本英夫 「発達論の難題」『発達心理学研究』第 22 巻第 4 号、pp.339-348、2011 年 12 月、(有)
131. 白井美穂・サトウタツヤ・北村英哉 「複線径路等至性モデルからみる加害者の非人間化プロセス—「Demonize」と「Patientize」—」『法と心理』第 11 巻 1 号、pp.40-46、2011 年 10 月、(有)
132. 菅 さやか 「東日本大震災が日本人の環境配慮行動に与えた影響～電力の使用に関する社会的ジレンマとその解決方法を例に～」『サステナ』第 21 号、pp.34-37、2011 年 10 月、(無)
133. 河本英夫 「痛みのシステム現象学」『現代思想』2011 年 8 月号、pp.148-159、2011 年 8 月、(無)
134. 河本英夫 「現実性と希望の輪郭」『現代思想』2011 年 9 月臨時増刊号、pp.146-51、2011 年 9 月、(無)
135. 河本英夫 「精神療法はどこに向かっているのか」『臨床精神病理』第 32 巻 2 号、pp.157-160、2011 年 9 月、(有)
136. Hideo Kawamoto, “L’ AUTOPOIEESE ET L’ INDIVIDU EN TRAIN DE SE FAIRE”, Y. Brés, D. Merllié, *REVUE PHILOSOPHIQUE*, 第 136 巻 3 号、pp.347-363、2011 年 9 月、(有)
137. 西村 玲 「近世仏教におけるキリシタン批判——雪窓宗崔を中心に」『日本思想史学』第 43 号、pp.79-94、2011 年 9 月、(有)
138. Ohshima, Takashi, “Social norms and people's values in light of sustainability” United Nations University Press, Achieving Global Sustainability: Policy Recommendations, pp.70-86, Sept., 2011、(有)*18
139. 竹村牧男 「西田の禅思想をめぐって——逆対応から平常底へ」『西田哲学会年報』第 8 号、

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

pp.1-19、2011年7月、(有)

<図書>

●2016年

1. 河本英夫 『第三代系統論—与自造』 中国中央編訳社(2016年3月出版予定)

●2015年

2. 稲垣 諭 『大丈夫、死ぬには及ばない 今、大学生に何が起きているのか』 学芸みらい社(2015年11月、総ページ数 256)
3. 山田利明・河本英夫 [編著] 『エコ・ファンタジー—環境への感度を拡張するために』 春風社(2015年9月、総ページ数 331)*38

・各章の執筆者は下記の通り

岩崎 大 [共著] 「ファンタスティックな環境」 pp.11-2

河本英夫 [共著] 「触覚性環境」 pp.25-38

山田利明 [共著] 「食料自給率」 pp.39-48

武内和彦 [共著] 「レジリエントな自然共生社会に向けた生態系の活用」 pp.49-54

住 明正 [共著] 「非合理の合理性」 pp.55-68

鷺谷いづみ・安川雅紀・喜連川 優 [共著] 「ケンムン広場——生物多様性モニタリング研究における保全生態学と情報学の協働」 pp.69-80

八木信行 [共著] 「消費者が関与する海のサステナビリティ——水産物エコラベルのポテンシャル」 pp.81-98

石崎恵子 [共著] 「宇宙と環境とファンタジー」 pp.99-114

池上高志 [共著] 「マヌカン・レクチャーとフレッシュな生命」 pp.115-130

相楽 勉 [共著] 「初期日本哲学における「自然」」 pp.131-148

田村義也 [共著] 「南方熊楠・説話研究と生態学の夢想」 pp.149-164

横打理奈 [共著] 「大正詩人の自然観——根を張り枝を揺らす神経の木々」 pp.165-184

坂井多穂子 [共著] 「城外に詠う詩人——中国の山水田詩」 pp.185-196

安齋利洋 [共著] 「潜在的人類を探索するワークショップ」 pp.197-214

野村英登 [共著] 「エクササイズとしての無為自然」 pp.215-232

稲垣 諭 [共著] 「22世紀身体論——哲学的身体論はどのような夢をみるのか」 pp.233-256

日野原 圭 [共著] 「移動・移用について的小論——フレッシュな生命」 pp.257-278

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

- 山口一郎 [共著] 「カップリング(対化)をとおしての身体環境の生成」 pp.279-296
- 月成亮輔 [共著] 「高齢者・障害者の能力を拡張する環境とは」 pp.297-310
- 池田由美 [共著] 「障害者の環境」 pp.311-324
4. 田村義也 [共著] 「南方熊楠の謎(座談会) 鶴見和子さんを囲んで」『南方熊楠の謎 [鶴見和子との対話]』藤原書店(2015年6月、pp 75-269、総ページ数 282)
 5. 唐澤太輔 『南方熊楠—日本人の可能性の極限—』中央公論新社(2015年4月、総ページ数 304)
 6. 竹村牧男・中川光弘 [監修]、岩崎 大・関 陽子・増田敬祐 [編著] 『自然といのちの尊さについて考える—エコ・フィロソフィとサステイナビリティ学の展開』ノンブル社(2015年3月、総ページ数 492) *13
- ・各章の執筆者は下記の通り
- 竹村牧男 [共著] 「いのちの深みへ——仏教の立場から」 pp.17-38
- 中川光弘 [共著] 「不達の世界観の適用誤謬について」 pp.39-64
- 亀山純生 [共著] 「〈いのち〉の三契機と〈尊さ〉への倫理的視点」 pp.67-98
- 上柿崇英 [共著] 「〈生活世界〉の構造転換——”生”の三契機としての〈生存〉〈存在〉〈継承〉の概念とその現代的位相をめぐる人間学の一試論」 pp.99-156
- 増田敬祐 [共著] 「生命と倫理の基盤——自然といのちを涵養する環境の倫理」 pp.157-202
- 菅沼憲治 [共著] 「アルバート・エリス博士から学ぶ——寛容について考える」 pp.203-250
- 岩崎 大 [共著] 「自然観と死生観をつなぐ——終末期患者の視線から」 pp.251-276
- 岡野守也 [共著] 「自然といのちの尊さの根拠——宇宙的ヒエラルキーとバランス」 pp.279-292
- 榎根 勇 [共著] 「自然と人間のかかわり」 pp.293-332
- 秋山知宏 [共著] 「「存在の大いなる連鎖」のサステイナビリティ」 pp.333-400
- 立入 郁 [共著] 「気候変動と自然・いのち、個人・社会」 pp.401-436
- ジェフリー・クラーク [共著] 「クルーグマン、クライン、キリスト、環境」 pp.437-452
- 関 陽子 [共著] 「農業生物学の再考——「〈いのち〉を活かしあう農業技術」としての獣害対策へ」 pp.453-479
7. 河本英夫 [共著] 「想像界とネット界」『ユーザーがつくる知のかたち』西垣通[編]、角川書店(2015年3月、pp.125-158、総ページ数 290)
 8. 唐澤太輔 『生命倫理再考—南方熊楠と共に—』ヌース出版(2015年2月、総ページ数 190)
 9. 坂井多穂子 [共著] 「近体詩の作法——分類詩集・詩語・詩格書」『南宋江湖の詩人たち 中国近世文学の夜明け』勉誠出版(2015年3月、pp.154-159、総ページ数 280)
 10. 岩崎 大 『死生学』春風社(2015年2月、総ページ数 418)

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

11. 田村義也 [共編訳]『南方熊楠英文論考[ノーツ アンド クエリーズ]誌篇』藤原書店(2014年12月、総ページ数 894)
12. 山田一成・谷口明子 [共編著]『心理学の基礎』八千代出版(2014年11月、総ページ数 182)
13. 相楽 勉 [共著]「真理概念の変容」『ハイデガー読本』法政大学出版局(2014年11月、pp.196-205、総ページ数 406)
14. 永井 晋 [共著]「精神的東洋を求めて——光の現象学」『井筒俊彦』河出書房新社(2014年6月、pp.212-219、総ページ数 224)
15. 唐澤太輔 『南方熊楠の見た夢—パサーージュに立つ者—』勉誠出版(2014年4月、総ページ数 352)
16. 坂井多穂子 [共著]『詩僧皎然集注』汲古書院(2014年3月、pp.104-118,175-181、総ページ数 368)
17. 河本英夫 『損傷したシステムはいかに創発・再生するか』新曜社(2014年3月、総ページ数 426)
18. 安斎利洋 [共著]『社会心理学研究の新展開』北大路書房(2014年3月、総ページ数 209)
19. 西村 玲 [共著]「近世思想史上の『妙貞問答』」『妙貞問答を読む—ハビアンの仏教批判—』法蔵館(2014年3月、pp.359-374、総ページ数 487)
20. 西村 玲 [共著]「仏教排耶論の思想史的展開——近世から近代へ」『ブッダの変貌——交錯する近代仏教』法蔵館(2014年3月、pp.346-365、総ページ数 426)
21. 田村義也 [共著]「南方熊楠における西欧学知—「ロンドン抜書」と日本語著作」『知のユーラシア 5 交響する東方の知: 漢文文化圏の輪郭』明治書院(2014年2月 pp. 193-217、総ページ数 293)

●2013年

22. 山田利明・河本英夫・稲垣 諭 [編著]『エコロジーをデザインする—エコ・フィロソフィの挑戦』春秋社(2013年、総ページ数 352)*37

・各章の執筆者は下記の通り

長谷川真理子 [共著]「生態学から見た持続可能な社会」 pp.4-23

隈 研吾 [共著]「「大きいデザイン」から「小さいデザイン」へ」 pp.24-35

松尾友矩 [共著]「エコロジカルな共生」 pp.36-57

河本英夫 [共著]「システムの思考」 pp.60-76

稲垣 諭 [共著]「行為する思考……デザイン思考の原則」 pp.77-100

山田利明 [共著]「価値を生む思想」 pp.101-113

八木信行 [共著]「里海を創る……海の持続可能な利用を達成するためのデザイン」 pp.114-133

武内和彦・福士謙介 [共著]「サステイナビリティの科学」 pp.134-147

住 明正 [共著]「気候変動のシナリオ」 pp.148-168

大島 尚 [共著]「ボランティアと社会関係資本」 pp.170-185

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

中北 徹 [共著] 「二一世紀の水問題と環境ビジネス」 pp.186-211
 山谷修作 [共著] 「エコデザインとしてのゼロウェイスト戦略」 pp.212-234
 中島 晋 [共著] 「森林間伐のネットワークづくり」 pp.235-256
 河本英夫 [共著] 「道志村記……持続可能な村の選択と決断」 pp.257-269
 稲垣 諭 [共著] 「健康のデザイン……建築と覚醒する身体」 pp.272-299
 野村英登 [共著] 「身体の自然性と倫理……儒教の瞑想法から」 pp.300-316
 横打理奈 [共著] 「身体という環境」 pp.317-335
 河本英夫 [共著] 「人工的里山」 pp.336-349

23. Nagai Shin [M.Dalissier,Y.Sugimura との共著] “Philosophie japonaise”, Vrin(2013 年 3 月、総ページ数 480)
24. 西村 玲 [共著] 「須弥山と地球説」 黒住真、苅部直、佐藤弘夫、末木文美士編集『岩波講座 日本の思想 第四巻 自然と人為』 岩波書店(2013 年 8 月、pp.117-141、総ページ数 320)
25. 竹村牧男 [高島元洋との共著] 『仏教と儒教—日本人の心を形成してきたもの—』 一般財団法人放送大学教育振興会(2013 年、pp.11-110(「まえがき」及び 1-6 章を担当)、総ページ数 272)
26. 田中綾乃 [共著] 「カントの因果論をめぐる」『因果の探求』 三重大学出版会(2013 年 3 月、pp.95-106、総ページ数 200)
27. 今井芳昭 [共著] 『心理学事典』 平凡社(2013 年、「説得」、「応諾」、「社会的勢力」、「態度」の項目を執筆、担当ページ数 12、総ページ数 910)
28. 山口一郎・浜渦辰二 [共監訳] 『間主観性の現象学 その展開』 エドムント・フッサール著、筑摩書房(2013 年 9 月、総ページ数 599)

●2012 年

29. 安藤清志 [共著] 『ジャーナリストの惨事ストレス』 報道人ストレス研究会[編著]、現代人文社(2012 年 9 月、pp.39-47,132-140、総ページ数 163)
30. 今井芳昭 [共著] 「对人的影響・社会的影響」『心理学研究法 第5巻 社会心理学』 岡 隆 [編]、誠信書房(2012 年 3 月、pp.121-143、総ページ数 319)
31. 稲垣 諭 『リハビリテーションの哲学あるいは哲学のリハビリテーション』、春風社(2012 年 1 月、総ページ数 343)
32. 稲垣 諭 [共訳] 『間主観性の現象学 その方法』 E.フッサール[著]、ちくま学芸文庫(2012 年 5 月、pp.396-443,497-506、総ページ数 558)
33. 竹村牧男 『日本浄土教の世界』 大東出版社(2012 年 2 月、総ページ数 286)
34. 竹村牧男 『日本仏教 思想のあゆみ』 浄土宗出版室(2012 年 8 月、総ページ数 358)
35. 竹村牧男 『〈宗教〉の核心 西田幾多郎と鈴木大拙に学ぶ』 春秋社(2012 年 10 月、総ページ数 259)
36. Takemura, Makio, “Kukai’s Esotericism and Avatamsaka Thought” (*Avatamsaka Buddhism in East Asia—Huayan, Kegon, Flower Ornament Buddhism, Origins and Adaptation of a Visual Culture*, edited by Robert Gimello, Frederic Girard and Imre

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

Hamar,(2012年、pp. 339-376、総ページ数 380)

37. 西村 玲 [共著]「東アジア仏教のキリスト教批判—明末仏教から江戸仏教へ」『江戸の漢文脈文化』中野三敏・楠元六男[編]、竹林舎(2012年4月、pp. 84-102、総ページ数 486)
38. 西村 玲 [共著]「貞慶、良遍、叡尊、天海、金地院崇伝、沢庵宗彭、袋中良定、鈴木正三、草山元政、隠元隆琦、鉄眼道光、了翁道覚、円空、盤珪永琢、白隠慧鶴、大典顕常、鳳潭、普寂、慈雲飲光、良寛、月性」『日本をつくった名僧 100 人』末木文美士[編]、平凡社(2012年9月、左記 21 項目を担当、総ページ数 301)
39. 西村 玲 [共著]「近世仏教論」『日本思想史講座 3 近世』末木文美士、黒住真、佐藤弘夫、田尻祐一郎、苅部直[編]、ペリかん社(2012年12月、pp. 109-144、総ページ数 401)
40. 野村英登 [共著]「馬貴派八卦掌と易筋経」(李保華との共著)、「丹田で歩く」『からだの文化修行と身体像』五曜書房(2012年7月、pp.105-140,183-222、総ページ数 263)
41. 山口一郎 [共著]『ライブニッツ読本』法政大学出版局(2012年10月、pp.284-301、総ページ数 404)

●2011年

42. 田中綾乃 [共著]「坂部恵と演劇」『坂部恵—精神史の水脈を汲む』水声社(2011年6月、pp.164-178、総ページ数 350)
43. 山口一郎 『感覚の記憶—発生的神経現象学研究の試み』知泉書館(2011年11月、総ページ数 324)
44. 関 陽子 [共著]「社と向き合い森とともに生きる—科学と文化のまじわりから—」『〈農〉と共生の思想—〈農〉の復権の哲学的探求』尾関周二、亀山純生、武田一博、穴見慎一[編著]、農林統計出版(2011年11月、pp.239-251、総ページ数 298)

<学会発表>

●2016年

1. 唐澤太輔 「「南方曼陀羅」と『華嚴経』の接点」龍谷大学仏教文化研究所セミナー(龍谷大学大宮学舎、2016年3月予定)
2. 坂井多穂子 「常州の文人たち——蘇軾と楊萬里を中心に——」東洋大学東洋学研究所・研究発表会(東洋大学、2016年1月)
3. 河本英夫 「オートポイエーシスの展開」森田療法研究会(住友化学参宮寮、2016年1月)
4. 武藤伸司 「「身体学」の研究課題」東京女子体育大学・短期大学第10回研究フォーラム(東京女子体育大学、2016年1月)

●2015年

5. 唐澤太輔 「熊楠 夢について」藤本由起夫企画展「THE BOX OF MEMORY」reading club 第一章(アートホテル kumagusuku、2015年12月)
6. 山田一成・江利川滋 「Web 調査における SD 法と最小限化回答 (1) —Straight-lining と回答

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

時間の関係—」日本社会心理学会第 56 回大会,(東京女子大学、2015 年 11 月)

7. 江利川滋・山田一成 「Web 調査における SD 法と最小限化回答 (2) —Straight-lining の規定因—」日本社会心理学会第 56 回大会,(東京女子大学、2015 年 11 月)
8. 相楽 勉 「日本における「哲学」受容の独自性 —自然観の転換を手がかりに—」国際哲学研究センター全体国際シンポジウム「22 世紀の世界哲学に向けて」(東洋大学、2015 年 10 月)
9. 野村英登 「陽明学の近代化における身体の行方」日本宗教史像の再構築 11 回ワークショップ「身体と政治:近代日本の霊的な心身技法と国家論」(京都大学人文科学研究所、2015 年 9 月)
10. 坂井多穂子 「唐宋士大夫与“滑稽”——以白居易、梅堯臣、周紫芝为中心」(中国 南京大学仙林校区、2015 年 9 月)
11. 堀毛一也 「サステナブルな行動促進のための介入の試み」日本心理学会第 79 回大会(名古屋大学、2015 年 9 月)
12. 西村 玲 「日本近世における不殺生思想の展開—『三教放生辨惑』について—」日本宗教学会第 74 回学術大会(創価大学、2015 年 9 月)
13. 唐澤太輔 「南方熊楠—実証研究を越えて—」早稲田大学地域文化研究所研究発表会(早稲田大学 14 号館、2015 年 9 月)
14. 田村義也 「「燕石考」について—自筆草稿と引用文献一斑」南方熊楠研究会第一回大会(田辺市文化交流センター、2015 年 8 月)
15. 田村義也(コメンテータ) 「神社合祀反対運動再考」(畔上直樹座長、パネリスト:武内善信、原田健一、今泉宜子、南方熊楠研究会第一回大会、田辺市文化交流センター、2015 年 8 月)
16. 田村義也 「杉村家からの初期書簡寄贈について」南方熊楠研究会第一回大会(田辺市文化交流センター、2015 年 8 月)
17. 早川芳枝 「怪異と古代天皇制—『古事記』を中心に」怪異怪談研究会(駒澤大学、2015 年 8 月)
18. Horike K. “Revision of sustainable mind scale.” 17th European Conference of Personality. (Lausanne, Switzzland,July,2015)
19. Horike,K & Horike,H. ”A positive psychological intervention for promoting sustainable behavior.” The4th. World congress on positive psychology (Lake Buena Vista, Florida, U.S.A,June,2015)
20. 河本英夫 「システムの制作プロセス—D.リンチ」日本病跡学会(立教大学、2015 年 6 月)
21. 河本英夫 「システム現象学の試み」フッセル・アーベント(東北大学、2015 年 6 月)
22. 唐澤太輔 「南方マンダラはどう読まれてきたか—マンダラ誕生から今後の課題まで—」南方熊楠顕彰館・第 18 回特別企画展「南方熊楠と真言密教」(南方熊楠顕彰館内学習室、2015 年 4 月)
23. 唐澤太輔 「南方熊楠の立っていた場所—〈夢〉という「通路(パサージュ)」—」「夢と表象—その国際的・学際的研究展開の可能性」国際研究集会(国際日本文化研究センター、2015 年 3 月)
24. 西村 玲 「釈迦仏からゴータマ・ブッダへ——釈迦信仰の思想史」東洋大学国際哲学研究センター第 1 ユニット研究会連続研究会「明治期における人間観と世界観」(東洋大学、2015 年 1 月)

●2014 年

25. Shin, Nagai, ”What is Oriental Philosophy?”, Global Philosophy conference, The

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

Institute of European Studies at UC Berkeley, 2014, 10.

26. 西村 玲 「近世排耶論の思想史的展開」(パネル発表) 日本思想史学会 2014 年度大会パネルセッション「近代日本仏教の「前夜」—幕末維新时期における護法論の射程—」(愛知学院大学、2014 年 10 月)
27. 稲垣 諭 「哲学は経験の事故にどのようにかかわるのか」 リハビリテーションとナラティブ講演会(京都大学、2014 年 8 月)
28. 武藤伸司 「学習言語の習得における問題—具体と抽象の思考サイクルの経験—」(ポスター発表) 日本リメディアル教育学会第 10 回全国大会(東京電機大学、2014 年 8 月)
29. 唐澤太輔 「大日如来の大不思議—南方熊楠によるコスモロジー—」 南方熊楠顕彰会:2014 南方熊楠研究会夏季例会シンポジウム「南方熊楠と真言密教」(田辺市文化交流センター、2014 年 8 月)
30. 江利川滋・山田一成 「Web 調査の回答形式の違いが結果に及ぼす影響(3)」 日本社会心理学会第 55 回大会(北海道大学、2014 年 7 月)
31. 山田一成・江利川滋 「Web 調査の回答形式の違いが結果に及ぼす影響(4)」 日本社会心理学会第 55 回大会(北海道大学、2014 年 7 月)
32. 相楽 勉 「「美学」受容にみる明治期の人間観・歴史観」 国際哲学研究センター第 1 ユニット研究会(東洋大学、2014 年 7 月)
33. 早川芳枝 「古事記 42 番歌(「この蟹や」)試論」 日本文学協会第 34 回研究発表大会(いわき明星大学、2014 年 7 月)
34. 西村 玲 「アジアの中の江戸仏教——学僧たちの中国・インド、そして近代へ」 第9回仏教史学入門講座「知られざる僧侶の足跡」(大谷大学、2014 年 6 月)
35. Ryo Nishimura, Discussant, "Christianity and Religious Systems in Early Modern Japan: Myōtei Mondō and the Art of Refutation", Organizer/Chair: James Baskind, Nagoya City UniversityThe Eighteenth Asian Studies Conference Japan (ASCJ)(Sophia University, June 21-22, 2014)
36. 永井 晋 「東洋哲学とは何か」 国際日本文化研究センター「日本仏教の比較思想的研究」(国際日本文化研究センター、2014 年 4 月)
37. 唐澤太輔 「熊楠と夢—死者の交感としての〈夢〉、そして「理不思議」という領域—」 京都大学こころの未来研究センター河合俊雄教授主催「こころの古層と現代の意識」プロジェクト(京都大学こころの未来研究センター講義室、2014 年 3 月)
38. 田村義也 「南方熊楠と二つのエコロジー」 堺エコロジー大学シンポジウム「南方熊楠とエコロジー」(関西大学、2014 年 2 月)
39. 西村 玲 「近世排耶論の思想史的展開——明末から井上円了へ——」 国際哲学研究センター第 1 ユニット研究会(東洋大学、2014 年 1 月)

●2013 年

40. Ichiro Yamaguchi, "Erneute Frage nach der passiven Synthesis Husserls -- in der Themtaik der Zeit und des Anderen"(bei der koreanischen Gesellschaft der Phänomenologie, Nov. 9th, Soul University, Korea, 2013)
41. 稲垣 諭 「プロセスとしての臨床—ナラティブという経験は何を示唆するのか」 第 30 回日本現象学・社会科学会、記念シンポジウム(東洋大学、2013 年 11 月)

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

42. 山田一成・江利川 滋 「Web 調査の回答形式の違いが結果に及ぼす影響(1)」 日本社会心理学会第 54 回大会(沖縄国際大学、2013 年 11 月)
43. 江利川 滋・山田一成 「Web 調査の回答形式の違いが結果に及ぼす影響(2)」 日本社会心理学会第 54 回大会(沖縄国際大学、2013 年 11 月)
44. 飛田 操・水田恵三・安藤清志・渡辺浪二・佐藤史緒・堀毛一也・堀毛裕子・結城裕也 「複合災害がもたらした「喪失」: 浪江町民への面接調査から」 日本社会心理学会第 54 回大会発表論文集, 248.(沖縄国際大学、2013 年 11 月)
45. 堀毛一也 「サスティナブルな心性・行動尺度の再検討」 日本社会心理学会第 54 回大会(沖縄国際大学、宜野湾、2013 年 11 月)
46. 唐澤太輔 「南方熊楠の夢と思想」(対談×中沢新一) 明治大学野生の科学研究所主催『南方熊楠の新次元』シリーズ第 1 回(明治大学野生の科学研究所内ホール、2013 年 11 月)
47. 小林聡幸、稲垣 諭 「動作の反復による行動の緩慢を認めた統合失調症」 第 36 回日本精神病理・精神療学会(京都テレサ、2013 年 10 月)
48. 田村義也 「南方熊楠のヨーロッパとアジア-『ネイチャー』から『ノーツ・アンド・クエリーズ』へ」南方熊楠顕彰会及び南方熊楠記念館共催「第 9 回南方熊楠ゼミナール」(龍谷大学響都ホール、2013 年 9 月)
49. 大久保暢俊・下田俊介 「環境配慮行動の観察しやすさと平均以上効果」 日本心理学会第 77 回大会(札幌コンベンションセンター、2013 年 9 月)
50. 西村 玲 「東アジアにおける日本近世仏教—排耶論と不殺生思想—」 国際日本文化研究センター「日本仏教の比較思想的研究」第 3 回共同研究会(国際日本文化研究センター(京都府)、2013 年 9 月)
51. 西村 玲 「上野大輔氏「近世仏教墮落論」の呪縛と宗教史像の模索」報告コメント」 第 6 回仏教と近代研究会「日本仏教史像の近代的構築」(愛知学院大学、2013 年 9 月)
52. 西村 玲 「日本近世における不殺生思想——雲棲株宏の受容と影響」 2013 年度日本印度学仏教学会(島根県民会館、2013 年 9 月)
53. INAGAKI, Satoshi “A phenomenological approach to environmental designs that can expand human health”, XXIII World Congress of Philosophy, (Athens, August, 2013.)^{*3}
54. HORIKE, Kazuya “Some influences of the Higashi-Nihon earthquake on the inhabitants’ well-being” The 10th biennial conference of Asian Association of social Psychology (Yogyakarta, Indonesia, August, 2013)
55. 信岡朝子 「震災の写真表象——東日本大震災のメディア報道を題材に」 エコクリティシズム研究学会(2013 年 8 月)
56. 西村 玲 「中村元(1912-1999)の日本思想史研究」 2013 年度比較思想学会・40 周年記念大会(大正大学、2013 年 6 月)
57. Okubo, N. “Social comparison and ultimatum game.” (The 14th annual meeting of the Society for Personality and Social Psychology., New Orleans, LA. June, 2013)
58. HORIKE, Kazuya. “A cross-generational study on the relationships among sustainable mind, behavior, and well-being” The third world congress on positive psychology. (Westin Bonaventure, Los Angeles, June, 2013)
59. 田村義也 「柳田国男と南方熊楠」 民俗学研究所創設 40 周年記念公開講演会(成城大学、2013 年 5 月)

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

60. 西村 玲 「近世戒律運動—浄土僧普寂をめぐる—」 浄土宗学院(東部)研究会・講演 (大正大学、2013年3月)
61. 竹村牧男 「親鸞の仏身・仏土論——報身・報土の問題を中心に」 武蔵野大学仏教文化研究所研究会(武蔵野大学有明キャンパス、2013年3月)
62. OKUBO, Nobutoshi “Social comparison and ultimatum game.” The 14th annual meeting of the Society for Personality and Social Psychology, (New Orleans, LA. Feb. 2013)
63. 西村 玲 「近世・近代仏教におけるキリスト教観——禅仏教の視点から」 仏教史学会1月例会「ミニシンポジウム:近世仏教とその彼方—他者としてのキリスト教と思想の再編成—」(龍谷大学、2013年1月)

●2012年

64. 西村 玲 「近世仏教とキリスト教」 国際日本文化研究センターシンポジウム「近代仏教——トランスナショナルな視点から」第4部 伝統の変容(国際日本文化研究センター、2012年12月)
65. 福岡欣治・高橋尚也・松井豊・安藤清志・畑中美穂・井上果子 「東日本大震災とジャーナリストの惨事ストレス(4)—全国紙新聞社・通信社への質問紙調査からみた取材・報道活動と心身の自覚症状—」 日本社会心理学会第53回大会(筑波大学、2012年11月)
66. 堀毛一也 「サスティナブルな心性・行動と主観的well-beingの関連—東日本大震災前後の比較—」 日本社会心理学会第53回大会(筑波大学、2012年11月)
67. 武藤伸司 「『ベルナウ草稿』における未来予持と触発—意識流の構成における未来予持の必然性を問う—」 日本現象学会第34回研究大会(東北大学川内北キャンパス、2012年11月)
68. 竹村牧男 「人生の苦を見つめて——仏教の立場から」 第31回日本医学哲学・倫理学会特別講演(金沢大学鶴間地区、2012年11月)
69. 山村(関)陽子 「鯨類捕獲調査における科学合理性の検討」 環境思想・教育研究会第1回研究大会(弘前大学、2012年9月)
70. 福岡欣治・高橋尚也・松井豊・安藤清志・井上果子・畑中美穂 「東日本大震災とジャーナリストの惨事ストレス(3)—被災地内新聞社への質問紙調査からみた取材・報道活動と心身の自覚症状—」 日本心理学会第76回大会(専修大学、2012年9月)
71. 谷口尚子・大島 尚 「大学の地震防災対策と大学生の地震防災意識・行動の計量分析」 日本行動計量学会第40回大会(新潟県立大学、2012年9月)
72. 野村英登 「明治大正期における“中国哲学”の構築と静坐の実践」 日本宗教学会第71回学術大会(皇學館大学、2012年9月)
73. 竹村牧男 「井上円了の哲学について」 国際井上円了学会設立大会 記念公開講演(東洋大学白山キャンパス、2012年9月)
74. 野村英登 「佐藤一斎における自然と身体」 環境／文化研究会例会(東洋大学、2012年8月)
75. 堀毛一也 「Well-beingへの心理学的アプローチ」 総合地球環境学研究所 基幹FS「東アジアにおける環境配慮型の成熟社会」第10回研究会(京都、2012年7月)
76. HORIKE, Kazuya. “A preliminarily study for the individual differences in sustainable mind and behavior.” European Congress on Psychology. (Univ. of Trieste, Italy, 2012.7)

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

Book of Abstract, p. 206. *19

77. 永井 晋 「神名の沈黙と語ること—動きの現象学」 上智大学哲学会第 77 回大会シンポジウム「沈黙と語り」(上智大学、2012 年 7 月)
78. 西村 玲 「日本における須弥山論争の展開」 日本印度学仏教学会第 63 回学術大会(鶴見大学、2012 年 7 月)
79. 竹村牧男 「親鸞と『大乘起信論』——報身・報土の問題を中心に」 早稲田大学東洋哲学會第二十九回大會 招待講演(早稲田大学文学学術院、2012 年 6 月)
80. 野村英登 「莊子と武芸—“道”へ至る身体技法—」 靈山大学校開校 30 週年紀念國際學術大會「道と藝と世界」(韓国、靈山大學、2012 年 5 月)
81. 西村 玲 「『妙貞問答』の研究・訳注について—その概説と現状—」 国際日本文化研究センターシンポジウム「『妙貞問答』の訳注・英訳・研究」(国際日本文化研究センター、2012 年 4 月)
82. 永井 晋 「フランス現象学の<神学的転回>」 宗教哲学会第四回学術大会(京都大学、2012 年 3 月)

●2011 年

83. 竹村牧男 「自力と他力のあわい——西田の宗教哲学から」 第 107 回公共哲学京都フォーラム「自力と他力のあわい」(大阪・中之島、2011 年 12 月)
84. 西村 玲 「17 世紀東アジア仏教のキリスト教批判」 基盤研究(A) 中世宗教テキスト体系の総合的研究—寺院経蔵聖教と儀礼図像の統合—研究集会:「宗論」というテキスト(名古屋大学、2011 年 12 月)
85. 山口一郎 「感覚の記憶」 認知神経リハビリテーション学会アドヴァンスコース(兵庫医療大学、2011 年 11 月)
86. 武藤伸司 「フッサール初期時間論における実有位相論的分析の考察—ブレンターノとマイノングの時間論批判を通して—」 日本現象学会第 33 回研究大会(立命館大学衣笠キャンパス、2011 年 11 月)
87. 野村英登 「佐藤一斎の静坐説とその思想史的考察」 日本中国学会第 63 回大会(九州大学、2011 年 10 月)
88. 西村 玲 「近世の放生思想—明末仏教との関わりから—」 日本思想史学会 2011 年度大会(学習院大学、2011 年 10 月)
89. 西村 玲 「雲棲株宏の不殺生思想」 日本宗教学会第 70 回学術大会(関西学院大学、2011 年 9 月)
90. 今井芳昭 「対面的説得状況における情報の提示順序とミラーリングによる効果」 日本社会心理学会第 52 回大会 (名古屋大学、2011 年 9 月)
91. 北村英哉 ワークショップ話題提供「マンガ心理学の展開(3)—社会心理学・社会学からのアプローチ」日本心理学会第 75 回大会 (日本大学、2011 年 9 月)
92. 北村英哉 ワークショップ指定討論「臨床実践と心理学研究の対話(2)—反すうをめぐる—」 日本心理学会第 75 回大会(日本大学、2011 年 9 月)
93. 北村英哉 ワークショップ企画者「若手研究者の心理学授業の工夫」 日本心理学会第 75 回大

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

会(日本大学、2011年9月)

94. 北村英哉 「関連感情・無関連感情が差別行動に及ぼす影響について」 日本社会心理学会第52回大会(名古屋大学、2011年9月)
95. 清田尚行・北村英哉 「親密な関係における暴力被害後の認知プロセスの検討」 日本社会心理学会第52回大会(名古屋大学、2011年9月)
96. 齋藤萌香・川口史佳・清田直行・北村英哉 「懸念的被透視感が欺瞞行動に及ぼす影響(1)－欺瞞方略と被言語的行動の検討」 日本社会心理学会第52回大会(名古屋大学、2011年9月)
97. 川口史佳・齋藤萌香・清田直行・北村英哉 「懸念的被透視感が欺瞞行動に及ぼす影響(2)－欺瞞行動の映像呈示による印象評定」 日本社会心理学会第52回大会(名古屋大学、2011年9月)
98. 堀毛一也 「サステナブルな心性と行動の関連に関する予備的検討(2)－学生サンプルに関する分析－」 日本心理学会第75回大会発表論文集(日本大学、2011年9月)
99. 永井 晋 「創造的想像力の現象学」 土井道子記念京都哲学基金主催 平成23年度シンポジウム「宗教哲学の課題」(京都大学、2011年9月)
100. 堀毛一也 「サステナブルな心性と行動の関連に関する予備的検討(1)－社会人サンプルに関する分析－」 日本グループ・ダイナミクス学会第58回大会発表論文集(昭和女子大学、2011年8月)
101. 野村英登 「近代日本における武術と養生」 韓国道教文化学会 2011年春季国際学術大会(韓国、霊山大学、2011年7月)

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

<既に実施しているもの>

研究活動は、適宜ホームページ上(<http://www.toyo.ac.jp/site/tieph/>)に公開している。研究年報およびニュースレターについては、ホームページ上で閲覧可能であり、一部のイベントは動画公開も行っている。

【平成23年度】

1. シンポジウム

1)

日時:2011年10月8日

テーマ:「人間と自然の共生と持続可能な関係を求めて－風土のしらべから」*4

場所:東洋大学白山キャンパス5号館井上円了ホール

講演者:亀山純生(東京農工大学)、仙道作三(作曲家・演出家・エッセイスト)、竹村牧男(東洋大学)

コメンテーター:中川光弘(茨城大学)、宮本久義(東洋大学)

後援:一般社団法人サステナビリティ・サイエンス・コンソーシアム/環境思想・教育研究会

2)

日時:2011年11月12日

テーマ:「宗教と環境シンポジウム－新しい文明原理の生活化と宗教」*5

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

場所: 東洋大学白山キャンパス1号館 1102 教室

基調講演者: 竹村牧男(東洋大学)

パネリスト: 茂木貞純(國學院大学)、武田道生(淑徳大学)、村田充八(阪南大学)、佐藤孝則(天理大学おやさと研究所)

司会進行: 岡本享二(NPO法人環境経営学会)

2. セミナー

1)

日時: 2011 年 11 月 18 日

テーマ: 「生物多様性という課題—東日本大震災からの復興を視野に」*23

場所: 東洋大学白山キャンパス 6 号館 6210 教室

講演者: 鷺谷いづみ(東京大学)、八木信行(東京大学)、河本英夫(東洋大学)

後援: 一般社団法人サステナビリティ・サイエンス・コンソーシアム

2)

日時: 2012 年 3 月 10 日

テーマ: 「環境の危機と人間の危機—自然と共生する社会とは」

場所: 東洋大学白山キャンパス 6 号館 6317 教室

第 1 フェーズ—文化と自然

発表者: 竹村牧男(東洋大学)、山村陽子(東洋大学 TIEPh 研究助手)、オプヒュルス鹿島ナイノルト(上智大学)

第 2 フェーズ—社会と自然

発表者: 中川光弘(茨城大学)、岡野守也(サングラハ教育・心理研究所)、亀山純生(東京農工大学)、小川芳樹(東洋大学)

パネルディスカッション

コメンテーター: 上柿崇英(鹿児島大学産学官連携推進機構)、ジェフリー・クラーク(本郷高校講師)

共催: 茨城大学地球変動適応科学研究機関(ICAS)

3. 研究会

1)

日時: 2011 年 12 月 17 日

テーマ: 第 3 回人間再生研究会*31

場所: 東洋大学白山キャンパス 6 号館 6310 教室

パネリスト: 河本英夫(東洋大学)、池田由美(首都大学東京)、人見眞理(ソレイユ川崎)

総合司会: 稲垣 諭(東洋大学)

討論会司会: 岩崎正子(東京都立多摩医療センター)

共催: NPO 神経現象学リハビリテーション開発機構

4. 調査の実施

1)

価値観・調査ユニット

日時: 2012 年 2 月 21 日～2 月 25 日

調査内容: サステナビリティに関するマレーシアの価値意識調査*14

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

【平成24年度】**1. シンポジウム**

1)

日時:2012年2月24日

テーマ:「円了×熊楠—近代日本のエコ・フィロソフィ」*10

場所:東洋大学白山キャンパス2号館スカイホール

特別講演者:鎌田東二(京都大学こころの未来研究センター)

報告:野村英登(東洋大学 TIEPh 研究員)、岩井昌悟(東洋大学)、中島隆博(東京大学東洋文化研究所)

司会:永井 晋(東洋大学)

後援:国際井上円了学会

2)

日時:2013年3月9日

テーマ:「天命はなお反転する 人間再生のための環境—荒川修作+マドリン・ギンズとともに」*32

場所:東洋大学白山キャンパス5号館井上円了ホール

パネリスト:河本英夫(東洋大学)、花村誠一(東京福祉大学)、池上高志(東京大学)

総合討論司会:稲垣 諭(東洋大学)、本間桃世(荒川修作+マドリン・ギンズ東京事務所 代表)

共催:神経現象学リハビリテーション総合研究センター、ABRF, Inc.(荒川+ギンズ東京事務所)

3)

日時:2013年3月16日

テーマ:「妖怪学と環境問題 - 「お化け調査」は何を語るのか - 」*16

場所:東洋大学白山キャンパス6号館6302教室

講演者:菊池章大(東洋大学)、吉野諒三(統計数理研究所・調査科学研究センター長)、真鍋一史(青山学院大学)

コメンテーター:堀毛一也(東洋大学)

総合司会:大島 尚(東洋大学)

2. セミナー

1)

日時:2013年3月16日

テーマ:「いのちと自然の尊さについて考える」

場所:東洋大学白山キャンパス6号館6317教室

基調講演:吉田敦彦(大阪府立大学)

研究報告:岡野守也(サングラハ教育・心理研究所)、ティム・マクリーン(シープラスエフ研究所)、中川光弘(茨城大学)、竹村牧男(東洋大学)

コメンテーター:上柿崇英(大阪府立大学)、ジェフリー・クラーク(本郷高校講師)

共催:茨城大学地球変動適応科学研究機関(ICAS)

3. 研究会

1)

日時:2012年12月15日

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

テーマ：第 4 回人間再生研究会*31

場所：東洋大学白山キャンパス 6 号館 6309 教室

講演者：河本英夫（東洋大学）、花村誠一（東京福祉大学）、保前文高（首都大学東京）、後藤晴美（秋津療育園）

総合司会：岩崎正子（東京都立多摩総合医療センター）

講演会司会：稲垣 諭（東洋大学）

4. 視察

1)

日時：2012 年 7 月 28 日～29 日

目的：環境デザインのモデルケースとして、水源確保のための山林の管理、運営を視察*25

場所：山梨県 道志村

2)

日時：2012 年 8 月 4 日～7 日

目的：環境デザインのモデルケースとして、スマートグリッド計画の実施、およびその展開を視察*26

場所：韓国 濟州島

3)

日時：2012 年 10 月 31 日～11 月 3 日

目的：平成 24(2013)年度の国際シンポジウム発表予定者であるサンシャイコースト大学の Julie Matthews 氏との折衝、環境問題に関する意見交換会*15

場所：オーストラリア サンシャイコースト大学

【平成25年度】

1. シンポジウム

1)

日時：2014 年 1 月 11 日

テーマ：「いのちの尊さを考える」

場所：東洋大学白山キャンパス 8 号館 125 周年記念ホール

基調講演：村上和雄（筑波大学）

講演者：寺田信幸（東洋大学）・金子律子（東洋大学）・白石弘巳（東洋大学）・河本英夫（東洋大学）

パネリスト：寺田信幸、金子律子、白石弘巳、河本英夫

討論会司会：岡崎 渉（東洋大学）

主催：学術研究推進センター

共催：東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ（TIEPh）

2)

日時：2013 年 10 月 12 日

テーマ：「南方熊楠：神と人と自然」*11

場所：東洋大学白山キャンパス 5 号館井上円了ホール

基調講演：荒俣 宏（博物学者・作家）

研究発表者：唐澤太輔（早稲田大学）・野村英登（東洋大学 TIEPh 研究員）・増尾伸一郎（東

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

京成徳大学)・安田忠典(関西大学)

パネリスト:荒俣 宏・唐澤太輔・野村英登・増尾伸一郎・安田忠典

討論会司会:田村義也(南方熊楠顕彰会常任理事)

共催:南方熊楠顕彰会

協力:田辺観光協会

協賛:紀南文化財研究会・南紀生物同好会・田辺市熊野ツーリズムビューロー

2. セミナー

1)

日時:2014年2月22日

テーマ:「自然といのちの尊さを考える」

共催:茨城大学地球変動適応科学研究機関(ICAS)

場所:東洋大学白山キャンパス6号館6317教室

基調報告:菅沼憲治(聖徳大学)

個別報告:関 陽子(芝浦工業大学、東洋大学国際哲学研究センター)・秋山知宏(東京大学)・増田敬祐(東京農工大学)・上柿崇英(大阪府立大学)・岩崎 大(東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ)

討論会司会:中川光弘(茨城大学)

コメンテーター:岡野守也(サングラハ教育・心理研究所)・J・クラーク(本郷高校)

2)

日時:2014年3月15日

テーマ:「コンサベーション心理学の可能性—自然を思いやる心を育てるには—」*17

場所:東洋大学白山キャンパス5号館5310教室

発表者:Susan Clayton (Wooster 大学教授)

コメンテーター:堀毛一也(東洋大学)

司会:大島 尚(東洋大学)

3. 研究会

1)

日時:2013年7月30日

内容:2013年度に本センターに所属した研究員らによる研究交流会*6

場所:東洋大学白山キャンパス6号館文学部会議室

発表者:唐澤太輔(早稲田大学)・信岡朝子(東洋大学)・山本亮介(東洋大学)

司会:永井 晋(東洋大学)

2)

日時:2013年12月15日

テーマ:第5回人間再生研究会*31

場所:自治医科大学地域医療情報研修センター第2・3会議室

基調講演:加藤 敏(自治医科大学)

教育講演:加藤宏之(国際医療福祉大学病院「)

講演者:河本英夫(東洋大学)、池田由美(首都大学東京)、大越友博(芳賀赤十字病院)、稲垣 諭(自治医科大学)

後援:栃木県理学療法士会・自治医科大学精神医学教室・自治医科大学リハビリテーションセンター

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

共催: 神経現象学リハビリテーション研究センター・NPO 神経現象学リハビリテーション開発機構

3)

日時: 2014年3月1日

テーマ: 「方法論研究会: 方法論としてのオートポイエーシス」

場所: 東洋大学白山キャンパス 6号館第3会議室

発表者: 河本英夫(東洋大学)

主催: 東洋大学国際哲学研究センター(IRCP)

共催: 東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ(TIEPh)

4. 視察

1)

日時: 2013年5月11日～12日

目的: 近代日本エコロジー研究の先駆者である南方熊楠の思想風土の視察

場所: 和歌山県田辺市南方熊楠顕彰館

2)

日時: 2013年8月26日～30日

目的: 環境デザインのモデルケースとしての、アメリカ地熱発電所および環境関連施設の視察^{*27}

場所: アメリカ カリフォルニア州 Calpine 地熱発電所、サンフランシスコ、ヨセミテ国立公園ほか

【平成26年度】

1. シンポジウム

1)

日時: 2015年3月10日

テーマ: 「ドイツ文化とエコロジー」^{*24}

場所: 東洋大学白山キャンパス 6号館 6404 教室

講演者: ゲオルグ・シュテンガー(ウィーン大学)・河本英夫(東洋大学 TIEPh)・山口一郎(東洋大学大学院)

通訳(ドイツ語): 山口一郎

動画 URL: <https://www.youtube.com/playlist?list=PLST-oXBqgavLu7FIbEko2spCgz7ZfE0aR>

2)

日時: 2015年3月17日

テーマ: 「大地の思想－風水・聖地・里山－」^{*6}

場所: 東洋大学白山キャンパス 6号館 6209 教室

講演者: 大形 徹(大阪府立大学)・宮本久義(東洋大学)・田村義也(東洋大学)・河本英夫(東洋大学)

2. セミナー

1)

日時: 2014年11月15日

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

テーマ:「自然といのちの尊さについて考える」

場所:東洋大学白山キャンパス 6号館文学部会議室

発表者:中川光弘(茨城大学)・上柿崇英(鹿児島大学産学官連携推進機構)・関陽子(芝浦工業大学・東洋大学国際哲学研究センター)・岩崎大(東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ)・秋山知宏(東京大学)・増田敬祐(東京農工大学)・立入郁(海洋研究開発機構)

共催:茨城大学地球変動適応科学研究機関(ICAS)

3. ワークショップ

1)

日時:2014年5月24日

テーマ:「ARAKAWA+GINS という経験ー22世紀身体論を目指してー」

場所:三鷹天命反転住宅 In Memory of Helen Keller

講師:三浦尚彦・染谷昌義・稲垣諭(自治医科大学)

司会:安齋利洋

主催:ABRF, Inc. (荒川修作+マドリン・ギンズ東京事務所)

共催:東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ(TIEPh)

2)

日時:2015年1月17日

テーマ:「舞踊」、「身体と環境」

場所:三鷹天命反転住宅-In Memory of Helen Keller-

協力:ABRF, Inc. (荒川修作+マドリン・ギンズ東京事務所)

対談:田中 泯(舞踊家)・河本英夫(東洋大学)・本間桃世(ABRF, Inc.)

3)

日時:2015年2月16日

テーマ:「即興ダンス」、「身体の内発性」

場所:東洋大学白山キャンパス 5号館井上円了ホール ステージ

講師:岩下 徹(舞踊家/即興ダンス、<山海塾>ダンサー)

対談:岩下 徹・河本英夫(東洋大学)

4. 研究会

1)

日時:2014年7月30日

内容:自然観探求ユニット(第1ユニット)研究員による研究交流会

場所:東洋大学白山キャンパス 6号館第3会議室

発表者:野村英登(東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ)・早川芳枝(東洋大学)・相楽 勉(東洋大学)

動画 URL: <https://www.youtube.com/playlist?list=PLST-oXBqgavL7-kJbUig4p9pTaDU9l7ub>

2)

日時:12月13日

テーマ:第6回人間再生研究会*31

場所:東洋大学白山キャンパス 6号館 6406 教室

特別講演:野崎大地(東京大学大学院)

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

講演: 河本英夫(東洋大学)・池田由美(首都大学東京)

症例研究発表: 三田久載(富士リハビリテーション専門学校)・月成亮輔(市川市リハビリテーション病院)

パネリスト: 野崎大地・河本英夫・池田由美・三田久載・月成亮輔

討論会司会: 稲垣 諭(自治医科大学)

共催: 神経現象学リハビリテーション研究センター・NPO 神経現象学リハビリテーション開発機構

動画 URL: <https://www.youtube.com/playlist?list=PLST-oXBqgavKQfuf8L6CXdjCzlyEJZ1Ri>

5. 視察

1)

日時: 2014年8月4日～7日

目的: 環境デザインのモデルケースとしての、八丈島地熱発電所および自然環境の視察

場所: 東京都八丈町地熱発電所ほか

2)

日時: 2014年8月20日～25日

目的: 荒川修作関連施設およびニューヨーク・ボストン環境デザイン関連施設の視察^{*33}

場所: アメリカ合衆国ニューヨーク市(荒川事務所、バイオスクリープハウスほか)・ボストン市(MIT スタタセンターほか)

3)

日時: 2014年9月19日～21日

目的: 近代日本エコロジー研究の先駆者である南方熊楠の思想風土の視察^{*12}

場所: 和歌山県田辺市 南方熊楠顕彰館および熊野古道

4)

日時: 2015年3月12日～13日

目的: 東日本大震災後の福島県の被災地環境の調査^{*29}

場所: 福島県南相馬市「南相馬ソーラー・アグリパーク」、郡山市仮設住宅地ほか

6. 調査報告

1)

内容: 「環境配慮行動の実行可能性認知」について

報告者: 大久保暢俊(東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ)

【平成27年度】

1. シンポジウム

1)

日時: 2015年5月30日

テーマ: 「宋代の自然観」^{*8}

場所: 東洋大学白山キャンパス 2号館スカイホール

司会: 浅見洋二(大阪大学)

中国語通訳: 内山精也(早稲田大学)

講演者: 谷口高志(佐賀大学)・東 英寿(九州大学)・周 裕鏞(四川大学)

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

共催: 日本宋代文学学会

2)

日時: 2015 年 10 月 13 日

テーマ: 「after our Fukushima」*30

場所: 東洋大学白山キャンパス 6 号館文学部会議室

登壇者: ゲオルグ・シュテンガー(ウィーン大学)・ファビアン・ガーベルベルガー(東北大学)・河本英夫(東洋大学)

通訳(ドイツ語): 山口一郎(東洋大学大学院)

3)

日時: 2015 年 12 月 5 日

テーマ: TIEPh 最終シンポジウム「かおりの生態学」*9

場所: 東洋大学白山キャンパス 6 号館 6203 教室

司会: 山田利明(東洋大学)

特別講演: 高林純示(京都大学生態学研究センター)

講演: 坂井多穂子(東洋大学)

特定質問者: 金子有子(東洋大学)

TIEPh 研究成果報告: 河本英夫(東洋大学)

2. セミナー

1)

日時: 2015 年 11 月 14 日

テーマ: 「洞天思想と自然環境の問題」*7

共催: 日本道教学会

場所: 東洋大学白山キャンパス 2 号館スカイホール

講演者: 土屋昌明(専修大学)

3. ワークショップ

1)

日時: 2015 年 5 月 21 日

テーマ: 「身体と環境」

場所: 東洋大学白山キャンパス 6 号館文学部会議室

登壇者: 和栗由紀夫(舞踊家)・ゲオルグ・シュテンガー(ウィーン大学)・河本英夫(東洋大学)

通訳(ドイツ語): 山口一郎(東洋大学大学院)

2)

日時: 2015 年 12 月 16 日

テーマ: 「即興ダンス」、「環境一人間の組織化」

場所: 東洋大学白山キャンパス 8 号館 125 記念ホール

講師: 岩下 徹(舞踊家/即興ダンス、<山海塾>ダンサー)

対談: 岩下 徹・河本英夫(東洋大学)

4. 研究会

1)

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

日時:2015年7月29日

内容:本研究所所属研究員による研究交流会

場所:東洋大学白山キャンパス2号館第1会議室

発表者:金子有子(東洋大学)・山田利明(東洋大学)・相楽 勉(東洋大学)

2)

日時:2015年12月19日

テーマ:第7回人間再生研究会*31

場所:東洋大学白山キャンパス6号館6406教室

特別講演:村山正宣(独立行政法人理化学研究所)

講演:河本英夫(東洋大学)・池田由美(首都大学東京)

症例研究発表:菊地 豊(公益財団法人脳血管研究所美原記念病院)・月成亮輔(市川市リハビリテーション病院)

総合司会:池田由美(首都大学東京)

総合討論司会:大越友博(芳賀赤十字病院)

共催:神経現象学リハビリテーション研究センター・NPO 神経現象学リハビリテーション開発機構

5. 視察

日時:2015年8月24日～28日

目的:モンゴル国ウランバートル市周辺の都市環境および遊牧文化の自然観の調査*28

場所:モンゴル国ウランバートル市、テレルジ国立公園、ホスタイ国立公園ほか

<これから実施する予定のもの>

なし

14 その他の研究成果等

【平成23年度】

1. 刊行物

1)

日時:2011年7月

ニューズレターNo.12 発行

2)

日時:2012年1月

ニューズレターNo.13 発行

3)

日時:2012年3月

研究年報『「エコ・フィロソフィ」研究』第6号発行

4)

日時:2012年3月

研究年報別冊『「エコ・フィロソフィ」研究』第6号別冊発行

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

2. 講義

1)

日時: 2011年4月～7月

東洋大学全学部学生に向けて全学総合講義「エコ・フィロソフィ入門」*1を開講。

2)

日時: 2011年4月～1月

東洋大学大学院文学研究科哲学専攻「現代哲学演習Ⅱ」*2として、「身体論: 身体と環境」を開講。

3. TIEPh 主催 エコキャンパス企画「エコ・ウィーク」

日時: 2011年10月24日～29日

目的: エコ・フィロソフィの実践を目的としたイベントを企画、実施した。

1)

「エコ川柳」、「エコアイデア」の募集(10月24日～29日)

2) 「ウォーキング・ビューティ」(10月27日)*34

講師: 澁谷有里(ウォーキング・アドバイザー)

【平成24年度】

1. 刊行物

1)

日時: 2012年2月

DVD『テンダー・エマージェンス——来るべき自己へ』・『モア・ディヴェロップメント——』を作成*35

(DVD 原稿は、河本英夫「モア・ディヴェロップメント——認知の彼方へ」(『「エコ・フィロソフィ」研究』、査読無、第6号、pp109-124、2012年3月に掲載)

2)

日時: 2012年7月

ニュースレターNo.14 発行

3)

日時: 2012年11月

ニュースレターNo.15 発行

4)

日時: 2013年3月

『エコロジーをデザインする—エコ・フィロソフィの挑戦』発行*37

5)

日時: 2013年3月

研究年報『「エコ・フィロソフィ」研究』第7号発行

6)

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

日時:2013年3月

研究年報別冊『「エコ・フィロソフィ」研究』第7号別冊発行

2. 講義

1)

日時:2012年9月～2013年1月

東洋大学全学部学生に向けて全学総合講義「エコ・フィロソフィ入門」*1を開講。

2)

日時:2012年4月～1月

東洋大学大学院文学研究科哲学専攻「現代哲学演習Ⅱ」*2として、「身体論:障害者と環境」を開講。

【平成25年度】

1. 刊行物

1)

日時:2013年7月

ニューズレターNo.16発行

2)

日時:2013年11月

ニューズレターNo.17発行

3)

日時:2014年3月

研究年報『「エコ・フィロソフィ」研究』第8号発行

4)

日時:2014年3月

研究年報別冊『「エコ・フィロソフィ」研究』第8号別冊発行

2. 講義

1)

日時:2013年4月～1月

東洋大学大学院文学研究科哲学専攻「現代哲学演習Ⅱ」*2として、「身体論:身体の再生と環境」を開講。

2)

日時:2013年9月～2014年1月

東洋大学全学部学生に向けて全学総合講義「エコ・フィロソフィ入門」*1を開講。

【平成26年度】

1. 刊行物

1)

日時:2014年4月

ニューズレターNo.18発行

2)

日時:2014年8月

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

ニューズレターNo.19 発行

3)

日時:2015年2月

ニューズレターNo.20 発行

4)

日時:2015年3月

研究年報『「エコ・フィロソフィ」研究』第9号発行

5)

日時:2015年3月

研究年報別冊『「エコ・フィロソフィ」研究』第9号別冊発行

6)

日時:2015年3月

『自然といのちの尊さについて考えるーエコ・フィロソフィとサステイナビリティ学の展開』*13 発行

7)

日時:2015年3月

DVD『イノセント・メモリー ——身体記憶の彼方へ』を作成*36

(DVD 原稿は、河本英夫「イノセント・メモリー ——身体記憶の彼方へ」(『「エコ・フィロソフィ」研究』、査読無、第7号、pp103-113、2013年3月に掲載)

2. 講義

1)

日時:2014年4月～1月

東洋大学大学院文学研究科哲学専攻「現代哲学演習Ⅱ」*2として、「身体論:身体の再生と環境」を開講。

2)

日時:2014年9月～2015年1月

東洋大学全学部学生に向けて全学総合講義「エコ・フィロソフィ入門」*1を開講。

【平成27年度】

1. 刊行物

1)

日時:2015年5月

ニューズレターNo.21 発行

2)

日時:2015年9月

『エコ・ファンタジーー環境への感度を拡張するために』*38 発行

3)

日時:2015年10月

ニューズレターNo.22 発行

4)

日時:2016年3月

ニューズレターNo.23 発行

5)

日時:2016年3月

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

研究年報『「エコ・フィロソフィ」研究』第 10 号発行

6)

日時:2016 年 3 月

研究年報別冊『「エコ・フィロソフィ」研究』第 10 号別冊発行

2. 講義

1)

日時:2015 年 4 月～1 月

東洋大学大学院文学研究科哲学専攻「現代哲学演習Ⅱ」*2 として、「身体論: 身体の再生と環境」を開講。

2)

日時:2015 年 9 月～2016 年 1 月

東洋大学全学部学生に向けて全学総合講義「エコ・フィロソフィ入門」*1 を開講。

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

<「選定時」に付された留意事項>

海外リサーチによりどのようにエコ・フィロソフィを研究するのか明確にされたい

<「選定時」に付された留意事項への対応>

もとより環境問題は地球規模で取り組むべき問題であるが、人々の自然観やコミュニティ意識などは地域や文化により異なっており、そのような違いを明確にした上で解決の方向性を模索する必要がある。本研究プロジェクトでは、特に経済発展の著しいアジア諸地域を中心に、人々の価値観を調査により明らかにすることで、東洋の共生思想に基礎を置くエコ・フィロソフィの実証的な枠組みを構築することを目指している。多文化の共生するマレーシアで調査を実施し、過去にシンガポールやベトナムなどで行った調査との比較分析を行い、イスラム文化を特徴づけるような興味深い結果を得ている。

<「中間評価時」に付された留意事項>

・同大学の国際哲学研究センターの形成プロジェクトとかなり重複している。そちらで所属変更しているメンバーがこちらの組織では変更していない。

・活動はやや低調である。エコ・ソフィアそのものの概念を問うプロジェクト横断型の研究会やシンポを開催し、まとめ上げていく努力が必要である。とくに第二ユニットは、海外視察程度で、成果に乏しい。海外に研究機関がないと嘆くのではなく、積極的な姿勢が必要。

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

・国際哲学研究センターとの関係については、共通する研究員が複数在籍しているため、活動が重複している印象をもつが、各研究員は、本プロジェクト独自のテーマを、各自の専門領域を基に、学際研究を前提としつつ発表することで、エコ・フィロソフィの確立に従事している。すなわち、哲学研究の成果としてではなく、環境問題に処する実践知として、他領域の研究と連携するための成果を発表しているのであり、本プロジェクトの独自性は確保されている。両センターの目的に沿う共通の研究については、平成 25 年度に「方法論研究会：方法論としてのオートポイエーシス」を共催するなどの対応を行った。所属変更については研究員に再確認の上、修正を行った。

・プロジェクト全体に関わる国際シンポジウムの開催については、招聘者の都合等により、選定時に示したスケジュールから若干の遅れをとった。平成 25 年度以降は、上記の「ユニット間の連携」の項で記載したように、国際シンポジウムやユニット横断型の研究会、ワークショップ、書籍出版、国内外の視察を積極的に行った。また、これまでの研究成果を踏まえて、エコ・フィロソフィそのものの概念を問い直した論文として、河本英夫研究員が、平成 26 年度の研究年報において、「エコ・フィロソフィとは何か」を、岩崎大研究助手がエコ・フィロソフィの教育成果を総括するものとして「エコロジー教育における哲学の役割ー「エコ・フィロソフィ入門」の取り組みー」を発表した。さらに、最終年度となる平成 27 年度の最終シンポジウム「「かおり」の生態学」*9 では、河本英夫研究員が「エコ・フィロソフィとは何か」という演題で講演を行った。ここでは、エコ・フィロソフィが、特定の課題に集中して取り組むのではなく、常に多様な選択肢を用意することで展開可能性を拡張していく課題発見型のプロジェクトであり、展開された選択肢の中から同心円的に有効なネットワークが形成されることによって、結果的に特定の課題解決につながるということが確認された。

法人番号	131070
プロジェクト番号	S1191006

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他()	
平成23年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	13,486	8,724	4,762				
平成24年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	13,069	8,624	4,445				
平成25年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	13,486	9,336	4,150				
平成26年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	14,994	10,344	4,650				
平成27年度	施設	0						
	装置	0						
	設備	0						
	研究費	10,970	7,873	3,097				
総額	施設	0	0	0	0	0	0	0
	装置	0	0	0	0	0	0	0
	設備	0	0	0	0	0	0	0
	研究費	66,005	44,901	21,104	0	0	0	0
総計	66,005	44,901	21,104	0	0	0	0	

17 施設・装置・設備の整備状況（私学助成を受けたものはすべて記載してください。）
 《施設》（私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。）（千円）

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
「エコ・フィロソフィ」学際 研究イニシアティブ	平成23年度	15m ²	2	16	0	0	

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

0 m²

《装置・設備》（私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。）（千円）

装置・設備の名称	整備年度	型 番	台 数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)				h			
				h			
				h			
				h			
				h			
(研究設備)				h			
				h			
				h			
				h			
(情報処理関係設備)				h			
				h			
				h			
				h			

18 研究費の支出状況（千円）

年 度	平成 23 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	771	PC関連消耗品、筆記具等	771
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	67	郵便・宅配便代	67
印 刷 製 本 費	431	印刷代	431
旅 費 交 通 費	1,257	研究・調査等に伴う旅費	1,257
報 酬 ・ 委 託 料	4,043	業務委託代、講師謝礼	4,043
	1,486	準備品費、図書、学会参加費、懇親会費、年会費、印紙代	1,486
計	8,055		8,055
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出 (兼務職員)	862	常勤アルバイト及びシンポジウム補助アルバイト等	862
			時給 900円、年間時間数 928時間 実人数 6人
教 育 研 究 経 費 支 出			
計	862		862
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教 育 研 究 用 機 器 備 品			
図 書			
計	0		0
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	359	研究補助	359
ポスト・ドクター	4,210	研究補助	4,210
研究支援推進経費			
計	4,569		4,569
			学内1人 学内2人(内、研究助手1名) 学内3人

法人番号

131070

(千円)

年 度	平成 24 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	796	PC関連消耗品、筆記具等	796
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	65	郵便・宅配便代	65
印 刷 製 本 費	447	印刷代	447
旅 費 交 通 費	1,998	研究・調査等に伴う旅費	1,998
報 酬 ・ 委 託 料	1,200	業務委託代、講師謝礼	1,200
	1,728	準備品費、図書、学会参加費、懇親会費、年会費、賃借料	1,728
計	6,234		6,234
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	682	常勤アルバイト及びシンポジウム補助アルバイト等	682
教育研究経費支出			
計	682		682
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品 図 書			
計	0		0
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	700	研究補助	700
ポスト・ドクター	5,453	研究補助	5,453
研究支援推進経費			
計	6,153		6,153

(千円)

年 度	平成 25 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	652	PC関連消耗品、筆記具等	652
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	102	郵便・宅配便代	102
印 刷 製 本 費	375	印刷代	375
旅 費 交 通 費	1,457	研究・調査等に伴う旅費	1,457
報 酬 ・ 委 託 料	2,403	業務委託代、講師謝礼	2,403
	1,362	準備品費、図書、学会参加費、懇親会費、年会費	1,362
計	6,351		6,351
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	790	常勤アルバイト及びシンポジウム補助アルバイト等	790
教育研究経費支出			
計	790		790
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品 図 書			
計	0		0
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	499	研究補助	499
ポスト・ドクター	5,846	研究補助	5,846
研究支援推進経費			
計	6,345		6,345

法人番号

131070

(千円)

年 度	平成 26 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	749	PC関連消耗品、筆記具等	749
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	121	郵便・宅配便代	121
印 刷 製 本 費	425	印刷代	425
旅 費 交 通 費	2,281	研究・調査等に伴う旅費	2,281
報 酬 ・ 委 託 料	2,157	業務委託代、講師謝礼	2,157
	2,109	準備品費、図書、学会参加費、懇親会費、年会費、賃借料	2,109
計	7,842		7,842
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	903	常勤アルバイト及びシンポジウム補助アルバイト等	903
教育研究経費支出			
計	903		903
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品 図 書	294	パソコン代	294
計	294		294
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	694	研究補助	694
ポスト・ドクター	5,261	研究補助	5,261
研究支援推進経費			
計	5,955		5,955

(千円)

年 度	平成 27 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	329	PC関連消耗品、筆記具等	329
光 熱 水 費	0		0
通 信 運 搬 費	145	郵便・宅配便代	145
印 刷 製 本 費	356	印刷代	356
旅 費 交 通 費	806	研究・調査等に伴う旅費	806
報 酬 ・ 委 託 料	1,771	業務委託代、講師謝礼	1,771
(図書資料費・雑費・会合費・学会費)	1,106	図書、学会参加費、懇親会費、年会費	1,106
計	4,513		4,513
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	793	常勤アルバイト及びシンポジウム補助アルバイト等	793
教育研究経費支出			
計	793		793
教育研究用機器備品 図 書			
計	0		0
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	765	研究補助	765
ポスト・ドクター	4,899	研究補助	4,899
研究支援推進経費			
計	5,664		5,664